

5-8 騒音

5-8-1 現況

(1) 道路交通騒音の状況

道路交通騒音については、東京都により主要な幹線道路について測定が行われている。

8 km 圏内における道路交通騒音の測定位置は、図 5-8-1(p5-8-2)に示すとおりであり、全部で 137 地点において測定が行われている。

このうち、地点 No. 1～50 までの 50 地点においては環境基準、地点 No. 51～137 までの 87 地点においては要請限度と比較した結果が整理されている。

平成 22 年度の測定結果から、以下のとおり整理した。

1) 8 km 圏内の状況

8 km 圏内の 50 地点における、道路交通騒音測定結果と環境基準の達成状況は、表 5-8-1(p5-8-3)に示すとおりであり、昼間は 50 地点のうちの 43 地点、夜間は 50 地点のうちの 24 地点において環境基準を達成していた。

また、8 km 圏内の 87 地点における、道路交通騒音の測定結果と要請限度と比較した結果は、表 5-8-2(p5-8-4～5-8-5)に示すとおりであり、昼間は 87 地点の全地点、夜間は 87 地点のうちの 78 地点において要請限度を下回っていた（要請限度を超過した地点は、昼間 0 地点、夜間 9 地点のみであった。）。

なお、測点別の環境基準及び要請限度の適合状況マップは、図 5-8-2(p5-8-6～5-8-7)のとおりであり、各会場近傍のうち中央区、品川区、渋谷区の地点で環境基準を達成していない地点がみられた。

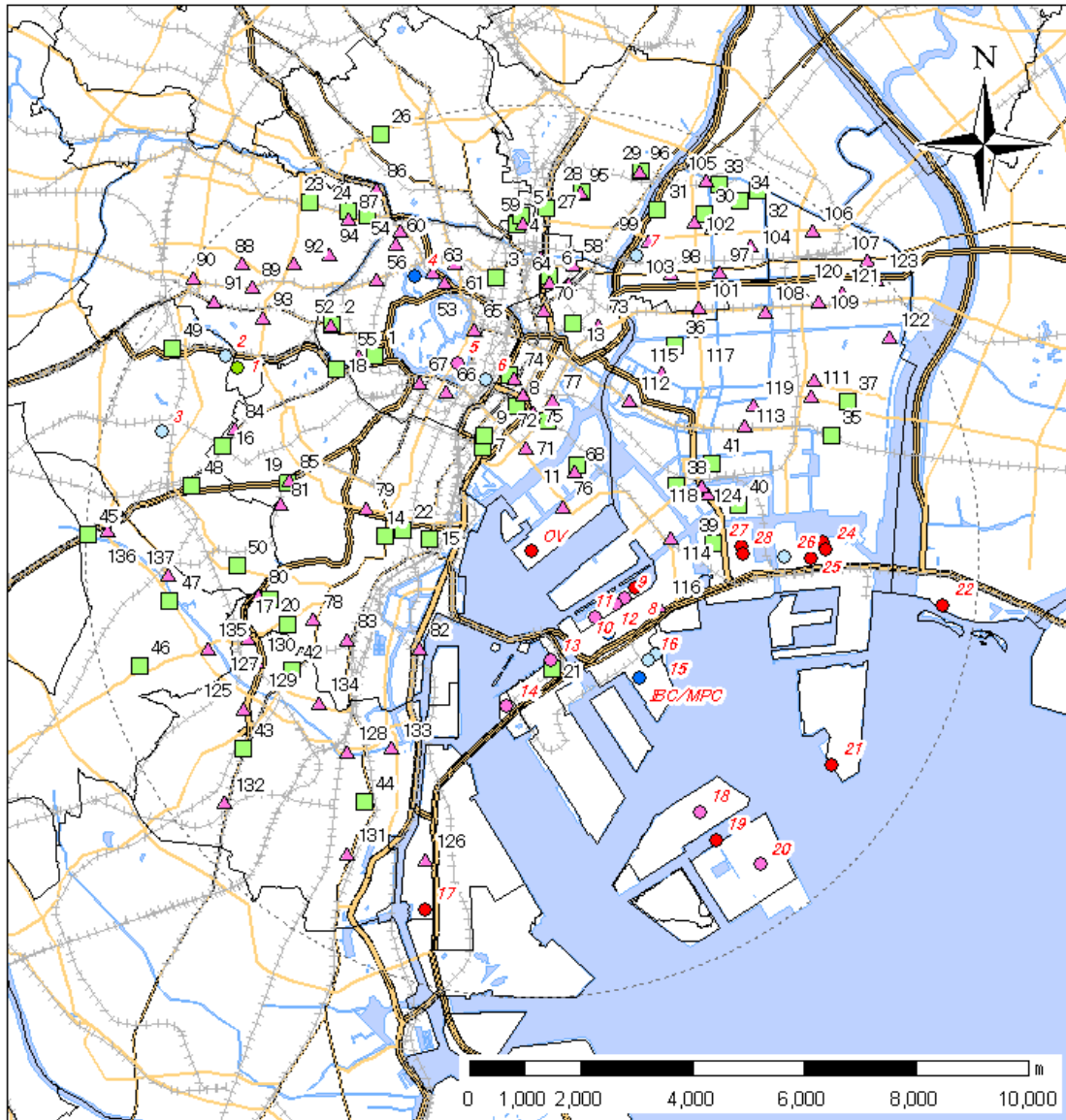
2) 個別施設周辺の状況

恒久施設の建設を行う会場のうち、オリンピックスタジアム（国立霞ヶ丘競技場）、有明アリーナ、有明テニスの森、選手村については、近隣に生活環境の場があることから、上記の東京都による測定結果をもとに、これらの会場の周辺の道路交通騒音の状況について確認した。

オリンピックスタジアム（国立霞ヶ丘競技場）周辺の道路交通騒音について、地点 No. 49、84、93 の 3 地点の状況について確認した結果、地点 No. 93 はいずれも昼間、夜間ともに要請限度を下回っており、No. 49 は昼間のみ環境基準を達成し、No. 84 は昼間のみ要請限度を下回っていた。

有明アリーナ、有明テニスの森周辺の道路交通騒音について、地点 No. 116 の状況について確認した結果、昼間、夜間ともに要請限度を下回っていた。

選手村周辺の道路交通騒音について、地点 No. 76 の状況について確認した結果、昼間、夜間ともに要請限度を下回っていた。



出典：環境GIS 環境数値データベース(国立環境研究所)

凡例

- | | |
|------------------|---------|
| 測定地点 (測定地点：黒文字) | □ 市区町村界 |
| ■ 環境基準 | +++ 鉄道 |
| ▲ 要請限度 | 道路 |
| 会場類型 (会場番号：赤文字) | == 高速道路 |
| ● A 新設恒久会場 | — 一般国道 |
| ● B 新設恒久会場 (計画中) | — 主要地方道 |
| ● C 仮設会場 | |
| ● D 既存会場 (改修あり) | |
| ● E 既存会場 (改修なし) | |

図 5-8-1 道路交通騒音測定位置 (平成 22 年度)

表 5-8-1 道路交通騒音測定結果（環境基準の達成状況：平成 22 年度）

地点No (黒文字)	測定地点の住所	道路名	環境基準 の 区域区分	昼間（6-22時）			夜間（22-翌6時）		
				測定 値 (dB)	環境 基準 (dB)	適 否	測定 値 (dB)	環境 基準 (dB)	適 否
1	千代田区隼町4	一般国道20号	C	68	70	○	66	65	×
2	千代田区麴町6丁目2	一般国道20号	C	67	70	○	64	65	○
3	千代田区神田美土代町7	一般都道403号大手町湯島線	C	66	70	○	64	65	○
4	千代田区外神田3丁目5	一般都道452号神田白山線	C	69	70	○	68	65	×
5	千代田区外神田6丁目13	特別区道千第638号	C	68	70	○	67	65	×
6	千代田区岩本町2丁目6	特別区道千第792号	C	66	70	○	63	65	○
7	中央区銀座8丁目16	日本橋芝浦大森線	C	69	70	○	67	65	×
8	中央区銀座1丁目20	日本橋芝浦大森線	C	74	70	×	74	65	×
9	中央区銀座7丁目13	日本橋芝浦大森線	C	72	70	×	71	65	×
10	中央区八重洲2丁目6	外濠環状線	C	65	70	○	62	65	○
11	中央区月島1丁目27	上野月島線	C	66	70	○	63	65	○
12	中央区入船3丁目3	新富晴海線	C	70	70	○	67	65	×
13	中央区日本橋人形町3丁目4	特別区道中日第6号線	C	70	70	○	68	65	×
14	港区三田2丁目7	一般国道1号	C	67	70	○	64	65	○
15	港区芝2丁目14	一般国道15号	C	67	70	○	64	65	○
16	港区北青山3丁目5	一般国道246号	C	71	70	×	71	65	×
17	港区白金台3丁目14	白金台町等々力線（目黒通り）	C	66	70	○	64	65	○
18	港区元赤坂1丁目1	外濠環状線	C	70	70	○	69	65	×
19	港区西麻布3丁目21	霞ヶ関渋谷線	C	74	70	×	74	65	×
20	港区白金台5丁目5	北品川四谷線（外苑西通り）	B	66	70	○	64	65	○
21	港区台場1丁目5	台場青海線	C	67	70	○	64	65	○
22	港区芝3丁目7	1022号線（区道）	C	68	70	○	65	65	○
23	新宿区榎町72-2	飯田橋石神井新座線	C	61	70	○	57	65	○
24	新宿区神楽坂6丁目25	飯田橋石神井新座線	C	64	70	○	60	65	○
25	新宿区津久戸町4-6	飯田橋石神井新座線	C	69	70	○	67	65	×
26	文京区小石川4丁目16	環状3号線	B	59	70	○	52	65	○
27	台東区上野5丁目14	一般国道4号	B	70	70	○	71	65	×
28	台東区元浅草1丁目5	都道453号	B	70	70	○	68	65	×
29	台東区雷門1丁目13-8	特別区道台第78号	B	66	70	○	63	65	○
30	墨田区本所4丁目10	区道墨105号	C	69	70	○	63	65	○
31	墨田区本所1丁目32	上野月島線	C	70	70	○	66	65	×
32	墨田区業平5丁目9	本郷亀戸線	C	70	70	○	65	65	○
33	墨田区業平1丁目12	本郷亀戸線	C	67	70	○	63	65	○
34	墨田区業平3丁目4	深川吾嬬線	C	70	70	○	66	65	×
35	江東区南砂3丁目14	南砂町吾嬬町線	B	63	70	○	59	65	○
36	江東区白河2丁目12-3	浜町北砂町線	C	69	70	○	66	65	×
37	江東区南砂5丁目24-7	東京浦安線	C	67	70	○	60	65	○
38	江東区塩浜1丁目5-5	区道江144	C	64	70	○	60	65	○
39	江東区辰巳1丁目8-43	区道江259/304	A	62	70	○	57	65	○
40	江東区潮見1丁目14-11	区道江416/400	C	62	70	○	60	65	○
41	江東区塩浜2丁目11-6	区道江174/175/368/459	C	68	70	○	65	65	○
42	品川区東五反田4丁目9	一般国道1号	C	69	70	○	67	65	×
43	品川区平塚1丁目2	一般国道1号	C	76	70	×	72	65	×
44	品川区南品川5丁目13	東品川下丸子線	C	68	70	○	67	65	×
45	目黒区東山3丁目1	国道246号線	C	73	70	×	74	65	×
46	目黒区中町1丁目27	白金台町等々力線	C	75	70	×	72	65	×
47	目黒区中目黒3丁目5	環状6号線	C	69	70	○	66	65	×
48	渋谷区渋谷2丁目13	霞ヶ関渋谷線（六本木通り）	C	70	70	○	72	65	×
49	渋谷区代々木1丁目22	四谷角筈線（裏参道）	C	68	70	○	67	65	×
50	渋谷区恵比寿1丁目23	芝新宿王子線（恵比寿通り）	C	68	70	○	67	65	×

注1：表中の地点Noは、図5-8-1(p5-8-2)の黒文字で示した番号に準ずる。

2：適否の欄においては「○：環境基準の達成」、「×：環境基準の未達成」を表す。

3：測定値は、道路端における1時間の測定値(L_{Aeq})を時間区分ごとにエネルギーに平均した値である。
出典：環境GIS 環境数値データベース（国立環境研究所）

表 5-8-2(1) 道路交通騒音測定結果（要請限度との比較結果：平成 22 年度）

地点No (黒文字)	測定地点の住所	道路名	要請限度 の 区域区分	昼間 (6-22時)			夜間 (22-翌6時)		
				測定 値 (dB)	要 請 限 度 (dB)	適 否	測定 値 (dB)	要 請 限 度 (dB)	適 否
51	千代田区神田神保町 2-15	都道 301号 (白山通り)	c	70	75	○	68	70	○
52	千代田区麹町 6-2	国道 20号 (新宿通り)	c	66	75	○	64	70	○
53	千代田区九段南 1-1	都道 401号 (内堀通り)	b	66	75	○	64	70	○
54	千代田区飯田橋 4-5-14	都道 8号 (目白通り)	c	70	75	○	69	70	○
55	千代田区平河町 2-5-1	区道 220号 (プリンス通り)	b	65	75	○	62	70	○
56	千代田区九段南 3-8-14	都道 302号 (靖国通り)	c	69	75	○	66	70	○
57	千代田区神田須田町 1-3	都道 302号 (靖国通り)	c	70	75	○	68	70	○
58	千代田区東神田 2-10-18	都道 302号 (靖国通り)	c	73	75	○	70	70	○
59	千代田区外神田 3-16-12	都道 437号 (中央通り)	c	69	75	○	67	70	○
60	千代田区富士見 1-4-4	区道 270号 (早稲田通り)	c	65	75	○	59	70	○
61	千代田区神田神保町 2-15	都道 301号 (白山通り)	c	71	75	○	68	70	○
62	千代田区神田岩本町 15	国道 4号 (日光街道)	c	69	75	○	67	70	○
63	千代田区旧和泉橋出張所 4階	首都高速 1号 (上野線)	c	71	75	○	68	70	○
64	千代田区岩本町 2-8-10	区道 792号 (水天宮通り)	c	67	75	○	64	70	○
65	千代田区丸の内 1-1-3	国道 1号 (日比谷通り)	c	67	75	○	64	70	○
66	千代田区日比谷公園	国道 1号 (晴海通り)	b	70	75	○	69	70	○
67	千代田区霞ヶ関 2-1	国道 20号 (内堀通り)	c	73	75	○	70	70	○
68	中央区月島 4-1	都道 463号 (清澄通り)	c	67	75	○	65	70	○
69	中央区日本橋小伝馬町 20	国道 6号 (江戸通り)	c	68	75	○	65	70	○
70	中央区日本橋本町 2-2	都道 316号 (昭和通り)	c	74	75	○	73	70	×
71	中央区築地 6-1	都道 304号 (晴海通り)	c	71	75	○	70	70	○
72	中央区京橋 3-11	都道 316号 (昭和通り)	c	71	75	○	70	70	○
73	中央区日本橋人形町 2-36	都道 50号 (新大橋通り)	c	71	75	○	69	70	○
74	中央区京橋 2-3	国道 15号 (中央通り)	c	68	75	○	67	70	○
75	中央区新富 2-5	都道 50号 (新大橋通り)	c	69	75	○	66	70	○
76	中央区晴海 3-1	都道 304号 (晴海通り)	c	66	75	○	65	70	○
77	中央区入船 1-1	都道 50号 (新大橋通り)	c	66	75	○	64	70	○
78	港区白金台 1-2-37	国道 1号 (桜田通り)	c	68	75	○	65	70	○
79	港区東麻布 2-31-7	都道 319号線 (外苑東通り)	c	73	75	○	72	70	×
80	港区白金台 5-10-15	都道 418号線 (外苑西通り)	c	71	75	○	69	70	○
81	港区西麻布 3-12-4	都道 418号線 (外苑西通り)	b	67	75	○	65	70	○
82	港区港南 3-9-59	都道 316号線 (海岸通り)	c	72	75	○	70	70	○
83	港区高輪 2-13-8	国道 15号 (第一京浜)	c	68	75	○	66	70	○
84	港区北青山 3-3-16	国道 246号 (青山通り)	c	71	75	○	71	70	×
85	港区西麻布 3-20-9	都道 412号線 (六本木通り)	c	74	75	○	74	70	×
86	新宿区新小川町 6-27	都道千代田練馬田無線 (目白通り)	c	75	75	○	73	70	×
87	新宿区神楽坂 6-58	都道飯田橋石神井新座線 (早稲田通り)	c	66	75	○	64	70	○
88	新宿区余丁町 4-15	都道新宿両国線 (余丁町通り)	c	66	75	○	65	70	○
89	新宿区富久町 8-25	都道新宿両国線 (靖国通り)	c	71	75	○	70	70	○
90	新宿区新宿 5-16-5	都道新宿両国線 (靖国通り)	c	71	75	○	68	70	○
91	新宿区新宿 1-7-3	区道 41-900 (新宿通り)	c	70	75	○	69	70	○
92	新宿区市谷本村町 7-3	都道環状 3号線 (外苑東通り)	b	70	75	○	67	70	○
93	新宿区左門町 13	都道環状 3号線 (外苑東通り)	c	69	75	○	67	70	○
94	新宿区納戸町 36	区道 34-191	a	63	65	○	57	55	×
95	台東区元浅草 1丁目 5-2	都道 453号線 (春日通り)	c	70	75	○	68	70	○
96	台東区雷門 1丁目 13-8	区道台第 8号 (雷門通り)	c	66	75	○	63	70	○
97	墨田区江東橋 1-7-14	国道 14号 (京葉道路)	c	69	75	○	67	70	○
98	墨田区緑 2-13-7	国道 14号 (京葉道路)	c	73	75	○	72	70	×
99	墨田区横綱 2-3	横綱町公園都道御徒町小岩線 (蔵前)	b	70	75	○	66	70	○
100	墨田区太平 1-17 法恩寺橋児童	都道御徒町小岩線 (蔵前橋通り)	c	69	75	○	66	70	○

注 1：表中の地点 No は、図 5-8-1(p5-8-2)の黒文字で示した番号に準ずる。

2：適否の欄においては「○：要請限度を下回る」、「×：要請限度を超過している」を表す。

3：測定値は、連続する 7 日間のうち該当自動車騒音の状況を代表すると認められる 3 日間について、道路端における 1 時間の測定値(L_{Aeq})を時間区分ごとにエネルギーに平均した値である。

出典：「自動車交通騒音調査結果 平成 22 年度」(東京都環境局)

表 5-8-2(2) 道路交通騒音測定結果（要請限度との比較結果：平成 22 年度）

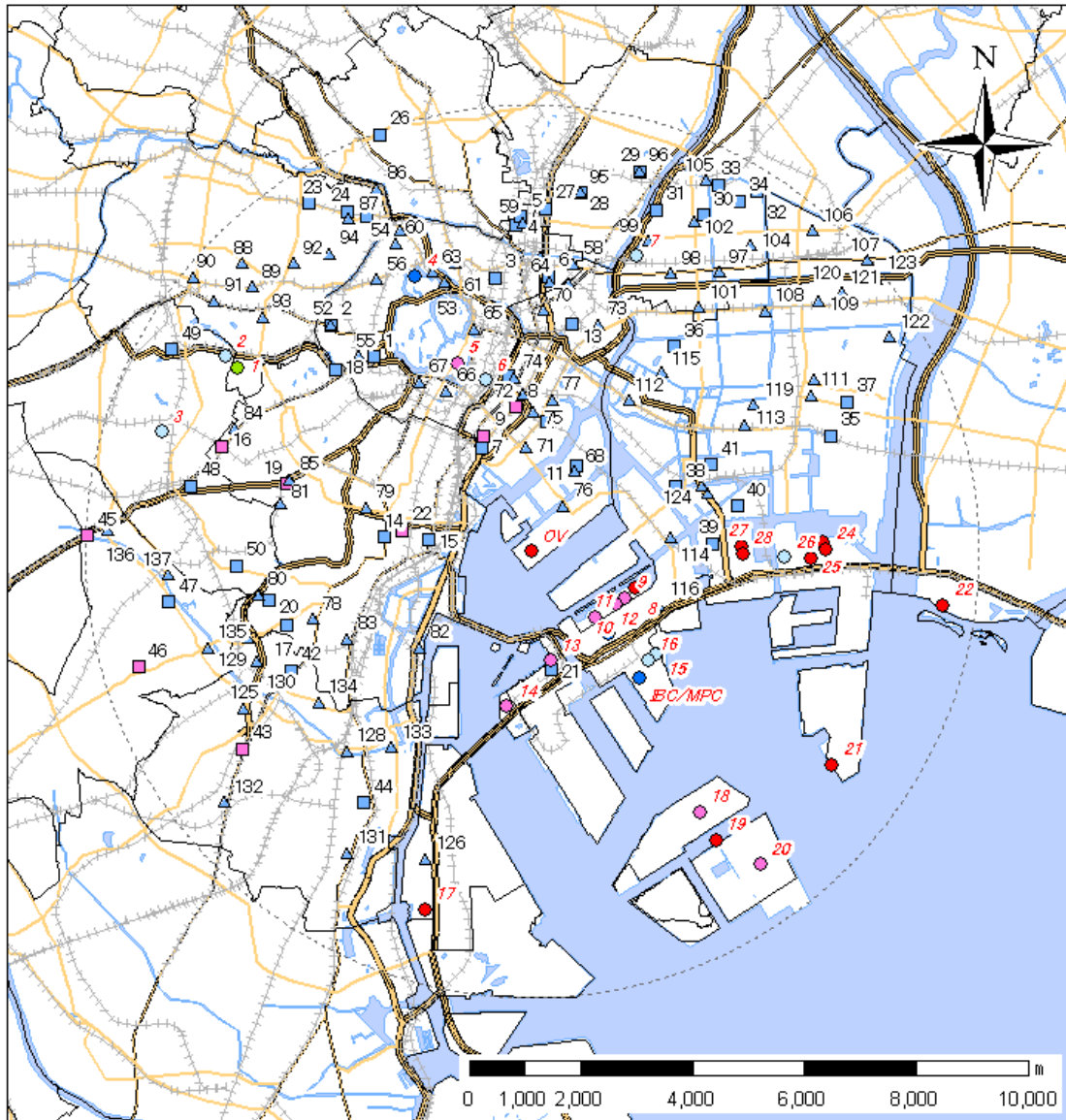
地点No (黒文字)	測定地点の住所	道路名	要請限度 の 区域区分	昼間 (6-22時)			夜間 (22-翌6時)		
				測定 値 (dB)	要 請 限 度 (dB)	適 否	測定 値 (dB)	要 請 限 度 (dB)	適 否
101	墨田区菊川 3-16-5	都道環状3号線 (三ツ目通り)	c	71	75	○	67	70	○
102	墨田区本所 4-1-4	都道環状3号線 (三ツ目通り)	c	72	75	○	69	70	○
103	墨田区横網 2-3	横網町公園都道上野月島線 (清澄通)	b	67	75	○	64	70	○
104	墨田区錦糸 4-15	錦糸公園都道深川吾嬬線 (四ツ目通)	b	69	75	○	66	70	○
105	墨田区吾妻橋 3-4-1	都道本郷亀戸線 (浅草通り)	c	66	75	○	62	70	○
106	江東区亀戸 4-14	都道放射14号線 (蔵前橋通り)	b	71	75	○	68	70	○
107	江東区亀戸 7-39-5	国道14号 (京葉道路)	c	72	75	○	70	70	○
108	江東区住吉 2-28-36	都道放射31号線 (新大橋通り)	b	66	75	○	64	70	○
109	江東区大島 3-16-2	都道放射31号線 (新大橋通り)	c	67	75	○	64	70	○
110	江東区北砂 4-13-23	都道補助111号線 (清洲橋通り)	c	69	75	○	65	70	○
111	江東区南砂 4-4-1	都道放射29号線 (葛西橋通り)	c	73	75	○	71	70	×
112	江東区永代 2-31	都道放射16号線 (永代通り)	c	68	75	○	66	70	○
113	江東区東陽 3-27	都道放射16号線 (永代通り)	c	69	75	○	68	70	○
114	江東区豊洲 4-11-18	都道補助34号線 (晴海通り)	c	67	75	○	63	70	○
115	江東区平野 1-2-3	都道補助110号線 (清澄通り)	c	69	75	○	67	70	○
116	江東区東雲 2-5	国道357号 (湾岸道路)	c	72	75	○	70	70	○
117	江東区森下 4-9-22	都道環状3号線 (三ツ目通り)	c	69	75	○	66	70	○
118	江東区枝川 3-3	都道環状3号線 (三ツ目通り)	c	72	75	○	70	70	○
119	江東区東陽 4-11-28	都道放射32号線 (四ツ目通り)	c	67	75	○	64	70	○
120	江東区大島 3-4-5	都道補助116号線 (明治通り)	c	67	75	○	64	70	○
121	江東区大島 6-7-8	都道環状4号線 (丸八通り)	b	65	75	○	62	70	○
122	江東区東砂 2-12-14	都道補助144号線 (番所橋通り)	b	69	75	○	64	70	○
123	江東区大島 7-30 (10F)	高速7号小松川線	c	68	75	○	67	70	○
124	江東区枝川 2-1 (10F)	高速9号深川線	c	72	75	○	70	70	○
125	品川区西五反田 6-6-19	都道東京丸子横浜線 (中原街道)	c	69	75	○	67	70	○
126	品川区八潮 5-10	国道357号 (湾岸道路)	b	62	75	○	59	70	○
127	品川区上大崎 2-13-36	都道白金台町等々力線 (目黒通り)	c	65	75	○	63	70	○
128	品川区北品川 3-10-13	都道環状6号線 (山手通り)	c	68	75	○	63	70	○
129	品川区上大崎 3-14-23	都道北品川四谷線	b	69	75	○	67	70	○
130	品川区上大崎 3-14-23	首都高速2号目黒線	b	69	75	○	66	70	○
131	品川区東大井 3-18-34	国道15号 (第一京浜)	c	73	75	○	70	70	○
132	品川区東中延 2-5-10	国道1号 (第二京浜)	c	73	75	○	70	70	○
133	品川区東品川 3-1-5	都道日本橋芝浦大森線 (海岸通り)	c	72	75	○	68	70	○
134	品川区北品川 5-1-12	都道環状6号線 (山手通り)	c	71	75	○	69	70	○
135	目黒区下目黒 2-20-24	都道白金台町等々力線 (目黒通り)	c	74	75	○	73	70	×
136	目黒区青葉台 3-7-17	都道環状6号線 (山手通り)	c	71	75	○	69	70	○
137	目黒区中目黒 1-4-17	都道古川橋二子玉川線 (駒沢通り)	c	68	75	○	66	70	○

注 1：表中の地点 No は、図 5-8-1(p5-8-2)の黒文字で示した番号に準ずる。

2：適否の欄においては「○：要請限度を下回る」、「×：要請限度を超過する」を表す。

3：測定値は、連続する7日間のうち該当自動車騒音の状況を代表すると認められる3日間について、道路端における1時間の測定値(L_{Aeq})を時間区分ごとにエネルギーに平均した値である。

出典：「自動車交通騒音調査結果 平成 22 年度」(東京都環境局)



出典：環境GIS 環境数値データベース(国立環境研究所)

凡例

基準昼間適合状況 (測定地点：黒文字)

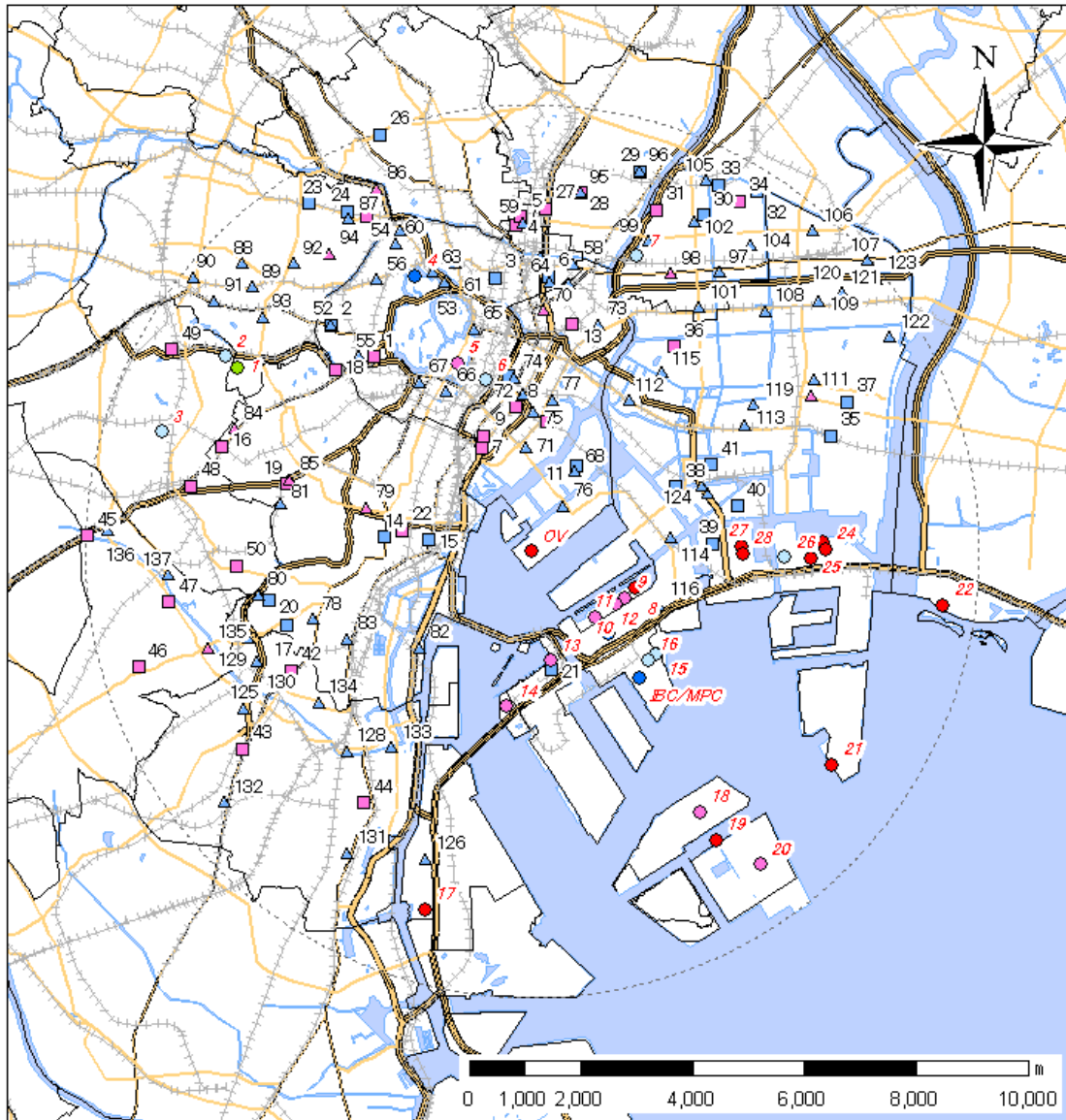
- 環境基準×
- 環境基準○
- ▲ 要請限度×
- ▲ 要請限度○

会場類型 (会場番号：赤文字)

- A 新設恒久会場
- B 新設恒久会場 (計画中)
- C 仮設会場
- D 既存会場 (改修あり)
- E 既存会場 (改修なし)

- 市区町村界
- +++ 鉄道
- 道路
- 高速道路
- 一般国道
- 主要地方道

図 5-8-2(1) 道路交通騒音の測定結果 (平成 22 年度 環境基準、要請限度の適合状況：昼間)



出典：環境GIS 環境数値データベース(国立環境研究所)

凡例

基準夜間適合状況 (測定地点：黒文字)

- 環境基準×
- 環境基準○
- ▲ 要請限度×
- ▲ 要請限度○

会場類型 (会場番号：赤文字)

- A 新設恒久会場
- B 新設恒久会場 (計画中)
- C 仮設会場
- D 既存会場 (改修あり)
- E 既存会場 (改修なし)

- 市区町村界
- +++ 鉄道
- 道路
- 高速道路
- 一般国道
- 主要地方道

図 5-8-2(2) 道路交通騒音の測定結果 (平成 22 年度 環境基準、要請限度の適合状況：夜間)

5-8-2 予測評価（会場別）

(1) 評価の指標及び目安

会場別検討における評価の指標及び目安は、表 5-8-3 に示すとおりである。

表 5-8-3 評価の指標及び目安

評価の指標	評価の基準	評価の目安				
		- 2	- 1	0	+ 1	+ 2
環境・交通騒音レベル	①環境基準及び法令等による基準 ②現況の騒音レベル	基準より良好な現況が基準より悪化、基準を満たさない現況がさらに悪化(周辺環境に大きな影響を及ぼす程度の騒音)	現況より悪化(周辺環境に影響を及ぼす程度の騒音)するが基準より良好	現況と変わらない(周辺環境に影響を及ぼさない程度の騒音)	基準を満たしつつ現況より改善	改善の結果、基準を満足する

(2) 予測評価の方法

会場別には、開催前（工事の実施による影響）、開催中（施設の存在による影響）、開催中（競技の実施による影響）、開催後（工事の実施による影響）、開催後（後利用による影響）の騒音による周辺環境への影響について予測評価の検討を行った。

それぞれの時期における予測評価の方法は、表 5-8-4 に示すとおりである。

表 5-8-4 予測評価方法（会場別）

予測評価の時期		予測評価の方法
開催前	工事の実施による影響	現段階では各会場の工事計画が固まっていないことから、過去の環境影響評価の事例を参考に、事業規模（延床面積）から工事の規模（工事車両、建設機械の稼働台数）を想定し、その規模に応じた工事の実施に伴って発生する騒音による周辺への影響について定量的に予測評価を行った。
開催中	施設の存在による影響	いずれの会場においても、施設が存在しているだけで、騒音が発生するような要因は想定できないことから、予測評価の対象外とした。
	競技の実施による影響	各会場において競技が実施される際の駐車場の利用、熱源施設の供用に伴う騒音の発生程度について現段階の施設計画（熱源施設は想定）を用いて、過去の環境影響評価の事例を参考に定量的に予測評価を行った。また、歓声や声援（応援）等により発生した騒音の周辺環境への影響については、定性的に予測評価を行った。
開催後	工事の実施による影響	仮設部分の撤去工事の実施に伴って発生する騒音による周辺への影響について、開催前の工事による影響と同様の方法により、定量的に予測評価を行った。なお、撤去工事以外にも内装等屋内工事があるが影響は小さいと想定されることから、予測評価の対象外とした。
	後利用による影響	新たに建設した施設の後利用（恒久利用）の際の駐車場の利用、熱源施設の供用及び観客の歓声や声援（応援）等により発生した騒音が、周辺環境に与える影響の程度について、開催中の競技の実施による影響と同様の方法により、定量的（一部、定性的）に予測評価を行った。

1) 工事の実施による影響（開催前、開催後）の予測方法

会場の建設工事に伴って発生する騒音の影響について、現段階においては工事計画が固まっていないことから、東京都等の条例に基づいて環境影響評価を実施した事業の規模、予測評価の結果等を参考として、開催前及び開催後の工事の実施における影響について予測評価を行った。

なお、参考とした事例は 31 事例であり、それぞれの事業概要は、表 5-8-5(p5-8-10～5-8-15)に示すとおりである。

各会場の建設工事（建築物の建設、駐車場の設置等）に伴う環境影響要因が類似すると考えられる事業種類として、オリンピックスタジアム（国立霞ヶ丘競技場）等の大規模施設の建設を想定して「大規模建築物の新設」、夢の島ユース・プラザ・アリーナやオリンピックアクアティクスセンター、ウォーターポロアリーナ等を想定して「高層建築物の新築」、選手村を想定して「住宅団地の新設」、各会場に併設することを想定した「自動車駐車場の設置」などの事業種類を中心に事例を収集整理した。また、各会場において建設される建物の規模等が様々であることから、事例についても、延床面積を事業規模の指標として様々な規模の事例を収集して整理した。今回整理した事例における延床面積の規模は、5,339～631,800m²である。

表 5-8-5(1) 環境影響評価の実施事例として整理した事業の概要

番号	名称	提出年月	種類	計画地	施設規模				事業概要
					敷地面積 (㎡)	延床面積 (㎡)	駐車場 台数(台)	工事期間 (ヵ月)	
A	環境影響評価書 (仮称)丸の内1丁目1 街区(東京駅丸の内北 口)開発計画	平成12年 11月	高層建築物 の新築	東京都千代田区丸の内一丁 目1番1、2、4、10、11、28、29、 39	23,800	335,000	740	48	計画地内の既存建物を解体し、新たな業務棟を 3棟、商業・ホテル棟を1棟建設するものである。
B	環境影響評価書案 ひばりが丘団地建替事 業	平成13年 9月	・住宅団地の 新設 ・自動車駐車 場の設置	東京都東久留米市ひばりが 丘団地の全域、南沢二丁目 の一部、学園長二丁目の一 部、西東京市ひばりが丘三 丁目の全域、ひばりが丘二 丁目の一部、谷戸町二丁目 の一部	345,400	311,000	2,200	1期:82 2期:69	2期13年次計画で都市基盤整備公団ひばりが 丘団地の既存宅を除却し、5~12階建ての中高層 住宅に建て替え、あわせて自動車駐車場の設置な どの居住環境の整備を行うものである。
C	環境影響評価書 豊洲新市場建設事業	平成23年 7月	・卸売市場の 設置 ・自動車駐車 場の設置	東京都江東区豊洲六丁目地 内	407,000	526,300	6,300	60	東京都が築地市場を首都圏の生鮮食料品流通 の中核を担う市場への再生するために、江東区豊 洲六丁目地内に整備される土地区画整理事業の5 街区、6街区及び7街区に、卸売市場を建設す るものである。
D	横河電機株式会社小峰 工場建設事業 評価書	平成5年 1月	工場の設置	東京都西多摩郡五日市町小 峰台1番地	21,693	5,339	102	12	製品に使用する板金部品の供給等を目的とし た工場をJR五日市線「武蔵五日市駅」より南南 東約1,500mにある工業団地内に建設するもの である。
E	環境影響評価書 読売府中別館建設事業	平成3年 11月	工場の設置	東京都府中市南町四丁目40 番33号他	28,667	I:27,897 II:19,751 計:47,648	108	I期:27 II期:22	東京都千代田区大手町一丁目7番1号にある 読売新聞社の発行事業のうち、府中市南町四丁目 40番33号他に「読売府中別館」を建設し、その 内部にコンピュータ部門を統合した「コンピュー タセンター」の設置及び「新聞印刷関連部門」の 一部を移転することための工場を建設するもの である。

表 5-8-5(2) 環境影響評価の実施事例として整理した事業の概要

番号	名称	提出年月	種類	計画地	施設規模				事業概要
					敷地面積 (㎡)	延床面積 (㎡)	駐車場 台数(台)	工事期間 (ヵ月)	
F	(仮称)晴海二丁目マンション計画建設事業環境影響評価書案	平成20年7月	住宅団地の新設	東京都中央区晴海二丁目	29,890	134,450	1,120	47	社会状況の変化に伴う多様な住居ニーズに対応できる都市型住宅の供給を図るとともに、良好でゆとりのある住環境の整備、土地の高度利用による良質な住宅供給を図り、定住人口回復に貢献することを目的として、東京都中央区晴海の現在更地である計画敷地に、2棟の高層住宅棟（住戸数約1,860戸、最高高さ約180m）を建設するものである。
G	ナゴヤドーム(仮称)計画建設事業に係る環境影響評価書	平成6年6月	大規模建築物の新設	名古屋市東区大幸南一丁目101番 外	69,000	118,000	1,000	35	野球を主としたスポーツイベントや音楽コンサート、見本市・展示会などイベントの開催会場として、地域の文化拠点づくりに貢献することを目的とした、全天候型の多目的新世代ドームを建設するものである。（東京、福岡に続く日本で3番目の大空間ドームであり、ドーム形態は固定屋根型である。施設内容は、国際規格を満足する野球場としての広さを確保するとともに、観客席は一部を可動式とし、イベントにあわせたフレキシブルな利用形態としている。）
H	(仮称)環二再開発(Ⅲ)街区：虎ノ門街区)建設事業 環境影響評価書	平成20年5月	高層建築物の新設	東京都港区虎ノ門一丁目23番 ほか	17,100	249,000	510	34	東京都港区虎ノ門一丁目地区に業務、住宅、商業、文化・交流機能等の多様な都市機能の導入が図られた建築物を建設するものである。（建築物については、高さ約250mの超高層棟及び高さ約28mの商業棟の2棟を建設する。）

表 5-8-5(3) 環境影響評価の実施事例として整理した事業の概要

番号	名称	提出年月	種類	計画地	施設規模				事業概要
					敷地面積 (㎡)	延床面積 (㎡)	駐車場 台数(台)	工事期間 (ヵ月)	
I	日清紡東京工場跡地イトーヨーカドーSC建築事業 環境影響評価書	平成18年 2月	自動車駐車場の設置	東京都足立区西新井栄町一丁目18番、19番、20番	32,400	107,300	1,550	21	東京都足立区西新井栄町一丁目18番、19番、20番に位置する敷地約32,400㎡(日清紡東京工場跡地等)において、商業施設の建設及びそれに伴う約1,550台の自動車駐車場を設置するものである。
J	(仮称)新砂三丁目商業施設建設事業 環境影響評価書	平成19年 2月	自動車駐車場の設置	東京都江東区新砂三丁目4番	24,400	93,300	1,600	13	東京都江東区新砂三丁目4番に位置する敷地約24,400㎡において、商業施設の建設及びそれに伴う約1,600台の自動車駐車場を設置するものである。
K	イトーヨーカドー新亀有店ショッピングセンター建築事業	平成16年 9月	自動車駐車場の設置	東京都葛飾区亀有三丁目及び足立区中川一丁目他	44,505	140,600	2,000	14	東京都葛飾区亀有三丁目及び足立区中川一丁目他に位置する敷地約44,505㎡(旧日本板紙(株)亀有工場跡地)において、商業施設の建設及びそれに伴う約2,000台の自動車駐車場を設置するものである。
L	ジョイフル本田グローバルホームセンター瑞穂建設事業 環境影響評価書	平成17年 11月	自動車駐車場の設置	東京都西多摩郡瑞穂町大字殿ヶ谷442番地ほか	96,800	95,300	3,200	8	東京都西多摩郡瑞穂町の既存市街地(工業地域)において、ホームセンターを中心とした商業施設の出店に伴い、約3,200台の収容規模を有する駐車場を整備するものである。
M	イオン東久留米ショッピングセンター(仮称)建築事業 環境影響評価書案	平成20年 7月	自動車駐車場の設置	東京都東久留米市南沢五丁目17番	55,700	98,600	2,020	11	東京都東久留米市南沢地区に位置する敷地(ひばりヶ丘グラウンド跡地)約55,700㎡において、商業施設の建設及びそれに伴う約2,020台の自動車駐車場を設置するものである。

表 5-8-5(4) 環境影響評価の実施事例として整理した事業の概要

番号	名称	提出年月	種類	計画地	施設規模				事業概要
					敷地面積 (㎡)	延床面積 (㎡)	駐車場 台数(台)	工事期間 (ヵ月)	
N	大日本印刷株式会社神谷工場建設事業 環境影響評価書	平成 16 年 10 月	工場の設置	東京都北区神谷三丁目 7 番 1 号他	26,500	33,100	60	13	東京都北区神谷三丁目の計画敷地約 26,500㎡内に印刷工場、自動車倉庫及び工場から排出する紙くず等を処理するリサイクル施設等を計画し、建設するものである。
O	わらべや日洋株式会社(仮称)新村山工場建設事業 環境影響評価書	平成 18 年 2 月	工場の設置	東京都武蔵村山市榎一丁目 1 番 3 号、東京都立川市上砂町六丁目 12 番 17 号他	33,057	1 : 12,757 2 : 6,151	250	1 期 : 11 2 期 : 9	東京都武蔵村山市榎一丁目及び立川市上砂六丁目に位置する日産自動車株式会社村山工場跡の一部に既設の食品加工工場を再編成し、新たな食品加工工場を建設するものである。
P	(仮称)イオン日の出ショッピングセンター建築事業 環境影響評価書	平成 18 年 12 月	自動車駐車場の設置	東京都西多摩郡日の出町大字平井字三吉野桜木地区内	132,000	135,812	3,728	10	東京都西多摩郡日の出町三吉野桜木土地区画整理事業用地内に位置する敷地約 132,000㎡において、商業施設の建築及び 3,728 台の自動車駐車場の設置を行うものである。
Q	ホームズ葛西店建設事業 環境影響評価書	平成 16 年 3 月	自動車駐車場の設置	東京都江戸川区東葛西九丁目 3253-1 外	38,000	82,000	1,500	8	東京都江戸川区東葛西の日本ロール製造株式会社の工場一部跡地において、商業施設の出店に伴い、約 1,500 台の収容規模を有する駐車場を整備するものである。
R	ザ・モール瑞穂新築事業 環境影響評価書	平成 13 年 2 月	自動車駐車場の設置	東京都西多摩郡瑞穂町大字高根 585 番地 1 号	72,000	63,700	1,940	10	東京都西多摩郡瑞穂町において、商業施設計画に伴い約 1,940 台の自動車駐車場を整備するものである。

表 5-8-5(5) 環境影響評価の実施事例として整理した事業の概要

番号	名称	提出年月	種類	計画地	施設規模				事業概要
					敷地面積 (m ²)	延床面積 (m ²)	駐車場台数(台)	工事期間 (ヵ月)	
S	(仮称)西友府中店建築事業 環境影響評価書	平成19年1月	自動車駐車場の設置	東京都府中市四谷五丁目23-12他	27,800	50,500	1,150	12	東京都府中市四谷の流通センター跡地に商業施設の建築及び約1,150台の駐車場の設置を行うものである。
T	(仮称)馬込車両基地車両工場建設事業 環境影響評価書	平成13年5月	工場の変更	東京都大田区南馬込6-38-1	52,481	9,600	—	31	都営浅草線及び都営大江戸線の車両検査を実施するために、東京都大田区南馬込の馬込車両基地に、新たに検査施設を増設するものである。
U	(仮称)ロッテワールド東京計画 環境影響評価書	平成11年6月	・高層建築物の新設 ・自動車駐車場の設置	東京都江戸川区臨海町2丁目4番地	192,100	631,800	4,350	45	東京都江戸川区臨海町二丁目に直径約300mのドームからなるテーマミュージアムと高さ約210mのホテル棟及び商業施設等を中心とした複合施設を建設するものである。
V	春日・後楽園駅前地区市街地再開発事業	平成21年7月	高層建築物の新築	東京都文京区小石川1丁目1番外	16,200	181,000	505	39	業務・商業・居住棟の機能を持った、高層建築物を含む複合施設を建設するものである。
W	業平橋押上地区開発事業	平成20年5月	・高層建築物の新設 ・自動車駐車場の設置	東京都墨田区押上1丁目1番の一部	39,700	230,000	1100	42	地上デジタル波を送信する新タワー及び商業棟、業務棟等で構成される街区を形成するとともに、自動車駐車場を設置するものである。
X	(仮称)大手町1-6開発事業	平成19年7月	高層建築物の新築	東京都千代田区大手町1丁目6-6他	11,038	200,000	340	51	敷地内にある大手町フィナンシャルセンターを高さ約200mの高層建築物に建替え、合わせて地上及び地下の都市基盤整備等を構築するものである。
Y	飯田橋駅西口地区市街地再開発ビル建設事業 (旧 富士見二丁目10番地区市街地再開発ビル建設事業)	平成21年2月	高層建築物の新設	東京都千代田区富士見2丁目及び飯田橋4丁目	16,700	186,000	430	49	東京都千代田区富士見2丁目に、高さ約160mの業務・商業棟、住宅棟を新築し、複合的な市街地を形成するものである。
Z	(仮称)丸の内2丁目4番計画建設事業	平成21年2月	高層建築物の新設	東京都千代田区丸の内2丁目7番2号	11,630	215,000	360	33	東京都中央郵便局を高さ約200mの高層建築物に建替え、国際化、高度情報化に対応した質の高いオフィスを供給するものである。

表 5-8-5(6) 環境影響評価の実施事例として整理した事業の概要

番号	名称	提出年月	種類	計画地	施設規模				事業概要
					敷地面積 (㎡)	延床面積 (㎡)	駐車場 台数(台)	工事期間 (ヵ月)	
AA	(仮称)大久保三丁目西地区開発事業	平成22年 3月	高層建築物 の新築	東京都新宿区大久保3丁目8番	25,200	170,000	610	42	オフィス、住宅、多目的ホール、商業、駐車場等を計画した最高高さ約160mの施設を建築するものである。
AB	芝浦水再生センター再構築に伴う上部利用事業	平成23年 7月	高層建築物 の新設	東京都港区港南1丁目2番1号	49,500	199,900	380	43	芝浦水再生センター再構築の一環として建設する雨天時貯留地に合わせて、その上部空間を利用し、業務・商業系ビルを合築するものである。
AC	赤坂一丁目地区第一種市街地再開発事業	平成24年 2月	高層建築物 の新築	東京都港区赤坂1丁目5番地、6番、8番、9番の一部	16,000	168,000	337	42	最高高さ220mの高層建築物を含む複合施設を整備するものである。
AD	六本木三丁目東地区再開発事業	平成23年 8月	高層建築物 の新築	東京都港区六本木三丁目1、2番内	19,200	200,200	410	48	業務、住宅、ホール、商業等の用途の計画建築物を新築、合わせて区画道路の拡幅、地下鉄駅周辺の歩行者通路の整備等を行うものである。
AE	(仮称)臨海副都心青海地区北側Q街区開発事業	平成21年 4月	自動車駐車場の設置	東京都江東区青海一丁目1番	32,900	205,530	1,412	26	約1,400台の自動車駐車場を有する商業・業務施設を建設するものである。

① 予測評価の内容

工事の実施に伴って発生する騒音による影響の程度の予測評価の内容は、表 5-8-6 に示すとおりである。

また、予測評価の手順は、図 5-8-3 に示すとおりである。

表 5-8-6 予測評価の内容（工事中）

予測項目	予測する事項	予測評価の内容
道路交通騒音	工事中の工事用車両の走行に伴う騒音レベル	工事用車両台数がピークとなる時の騒音レベルの増加分
環境騒音	工事中の建設機械の稼働に伴う騒音レベル	建設機械の稼働がピークとなる時の敷地境界における騒音レベル

② 工事用車両の走行に伴う影響の予測方法

工事用車両の走行に伴って発生する騒音レベルは、各会場において工場用車両の走行台数がピークとなる時の騒音レベルの増加分について予測を行った。

予測は、既存事例におけるピーク時の工事用車両台数と騒音レベルの増加分の関係から得られた関係式等と各会場で想定したピーク時工事用車両台数から予測することとした。

予測の手順は、図 5-8-3 に示すとおりである。

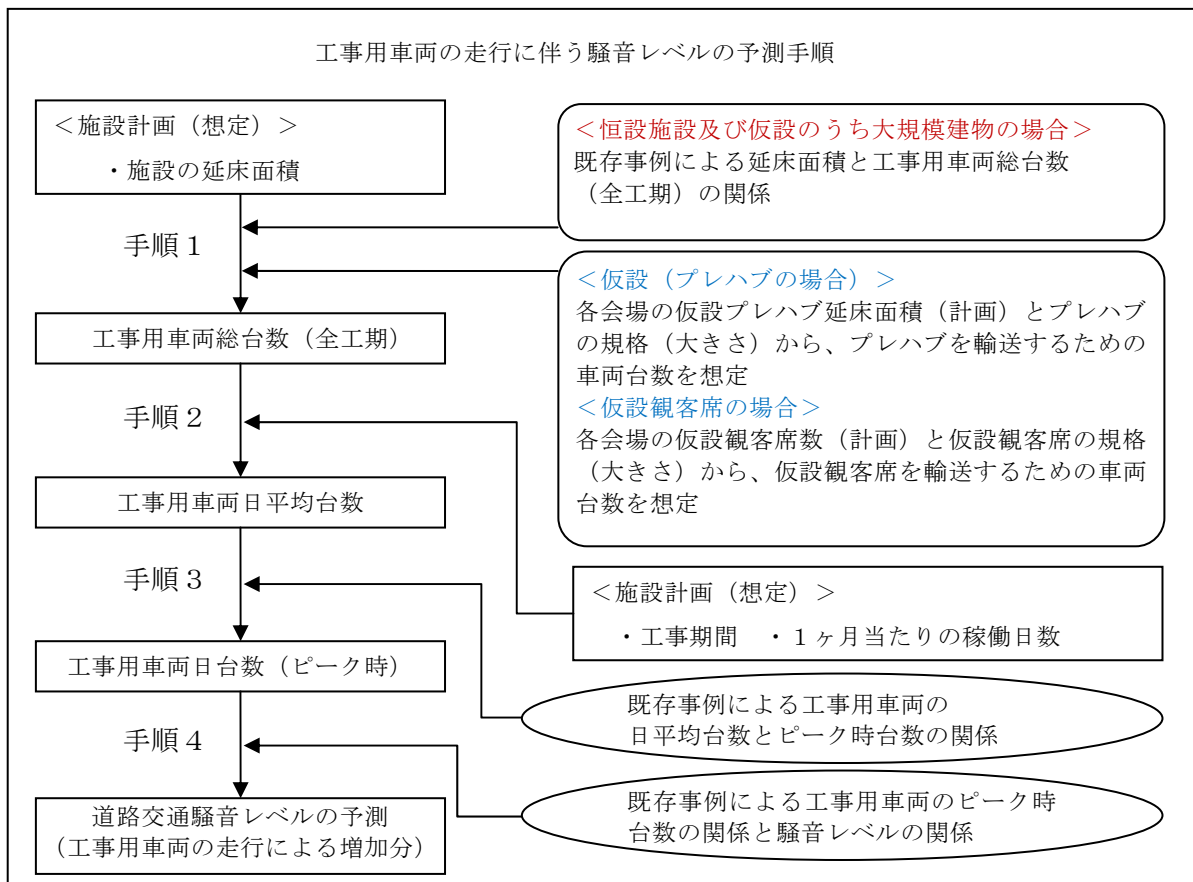


図 5-8-3 工事用車両の走行に伴う騒音レベルの予測手順

(イ) 工事中車両台数の設定

各会場において工事中車両の台数がピークになるときの車両台数については、既存事例における建物の延床面積、工事期間、工事中車両台数（期間合計、日平均台数、ピーク時）の関係とオリンピック各会場における延床面積、工事期間等から想定した。

既存事例について建物の延床面積、工事期間、工事中車両台数（期間合計、ピーク時、日平均台数）について整理した結果は、表 5-8-7 に示すとおりである。

なお、この検討においては表 5-8-5 (p5-8-10～5-8-15) に示す事例のうち、事例 AE は工事期間合計車両台数が不明確など不適であったため、不適な事例を除いた 30 事例を対象として整理した。

表 5-8-7 既存事例における延床面積と工事中車両台数の状況

事例番号	延床面積 (a)	工事期間 (b)	1ヵ月当 たりの工 事日数	工事中車両台数		
				工事期間合計 車両台数 (c)	工事期間日 平均台数 (d)	ピーク時 車両台数 (e)
				(m ²)	(ヵ月)	(日)
A	335,000	48	22	1,020,096	966	1,670
B	183,773	69	20	181,400	131	178
C	526,300	44	25	1,447,446	1,316	2,526
D	5,339	12	25	5,011	17	47
E-1	27,897	27	25	38,172	52	247
E-2	19,751	22	25	28,460	59	242
F	134,450	47	25	307,250	261	407
G	118,000	35	25	479,625	548	665
H	249,000	34	20	379,950	447	764
I	107,300	21	25	106,097	202	972
J	93,300	13	20	76,233	293	531
K	140,600	14	25	92,600	265	527
L	95,300	8	25	20,234	101	140
M	98,600	11	25	98,875	360	560
N	33,100	13	20	12,378	48	145
O-1	12,757	11	27	18,360	62	90
O-2	6,151	9	27	14,418	59	185
P	135,812	10	21	53,181	253	450
Q	82,000	8	26	15,184	73	134
R	63,700	10	21	11,547	55	143
S	50,500	12	25	13,869	46	150
T	9,600	21	25	14,425	27	63
U	631,800	45	25	997,450	887	1,440
V	181,000	39	25	230,300	236	493
W	230,000	42	26	730,496	669	1,020
X	200,000	51	26	112,164	104	324
Y	186,000	49	25	190,650	156	318
Z	215,000	33	26	370,396	432	825
AA	170,000	42	26	513,942	471	1,433
AB	199,900	43	25	351,925	327	741
AC	168,000	42	25	216,225	206	562
AD	200,200	48	25	288,875	241	728

注1) ピーク時及び工事期間合計の車両台数は、大型車、小型車の合計値とした。また、ピーク時台数とは、事業工事に伴い発生する工事車両の全交通量（集中発生交通量）とした。

注2) 事例 E と事例 O については、I 期工事分と II 期工事分をそれぞれ別々に整理した。

注3) c は全工事期間の総稼働台数である。

注4) d は次式より算出した。「 $d = c / (\text{工事期間} \times 1 \text{ヵ月当たりの工事日数})$ 」

(a) 延床面積と工事用車両台数（工事期間合計）の関係

各会場のうち、恒久施設及び仮設（プレハブを除く）建物を建設する際の工事用車両台数（工事期間合計）は、既存事例における延床面積と工事期間合計車両台数の関係と各会場の延床面積から想定することとした。

表 5-8-7(p5-8-17)の既存事例における延床面積（a）と工事期間合計車両台数（c）の関係は、図 5-8-4 に示すとおりであり、この結果から得られた関係式（式1）を用いて、各会場における工事用車両台数（工事期間合計）を想定した。

工事期間合計車両台数(c) (台) = 1.9223 × [延床面積(a) (m²)] 式1

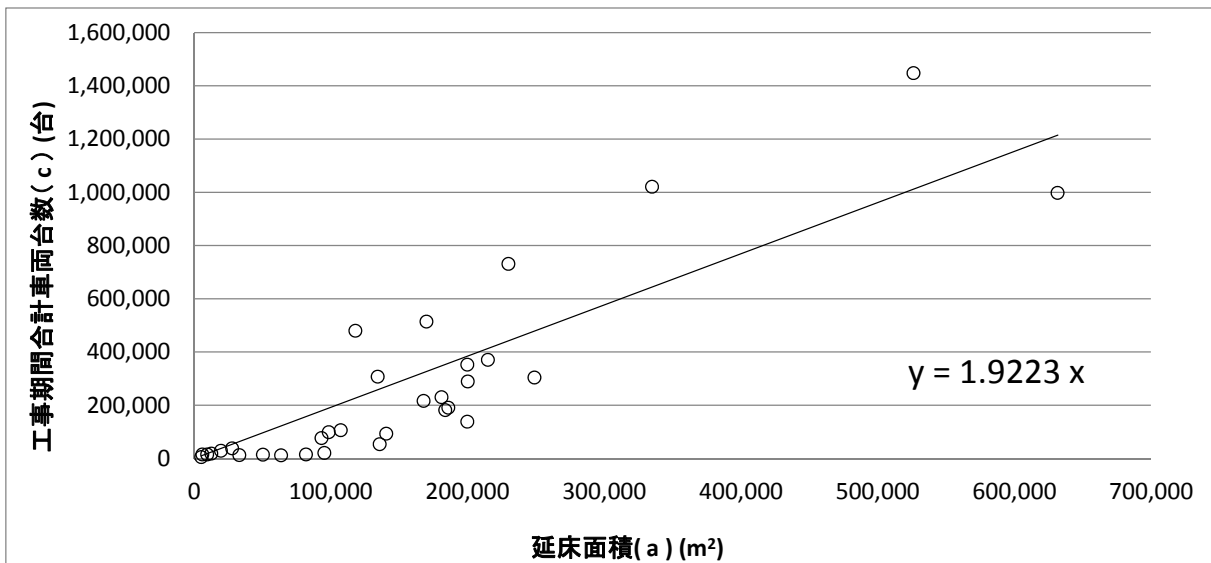


図 5-8-4 既存事例における延床面積と工事期間合計車両台数の関係

なお、各会場における仮設建物のうちプレハブや観客席の設置に係る工事については、プレハブや組立式の仮設観客席を運搬するための車両の台数（工事期間合計）について以下の方法により設定することとした。

したがって、工事期間合計車両台数は、式1で求めた工事用車両台数に仮設のプレハブ及び観客席の設置に伴う工事用車両台数を足し合わせて設定した。また、工事期間日平均台数は、工事期間合計車両台数を工事月数及び一月当たり稼働日で除した値として設定した。

<仮設プレハブの運搬に伴う工事用車両台数設定の方法>

- ① 仮設プレハブはすべて大型トラックで運搬することとする。
- ② 各会場の仮設プレハブに係る延床面積を大型トラックの荷台面積で除してプレハブの運搬に必要なトラックの台数を求める。
- ③ 大型トラックの荷台面積は 22.56m² とする。（荷台寸法：9,600mm×2,350mm と想定）
 （例：仮設プレハブ延床面積が 451.2m² の場合、トラック台数 = 451.2m² / 22.56m²/台 = 20 台）

<仮設観客席の運搬に伴う工事用車両台数設置の方法>

- ① 仮設観客席はすべて大型トラックで運搬することとする。
- ② 1台の大型トラックで 50席（50人分）の仮設観客席が運搬できるものと想定する。
- ③ 各会場の仮設観客席数を 50 で除して仮設観客席の運搬に必要なトラックの台数を求める。（例：仮設観客席数 1,000 席の場合、トラック台数 = 1,000 席 / 50 席/台 = 20 台）

$$\text{工事期間日平均台数}(d) \text{ (台/日)} = \frac{([\text{工事期間合計車両台数}(c) \text{ (台)}] + [\text{仮設プレハブ・観客席工事分車両台数}] \text{ (台)})}{(\text{工事期間 (ヶ月)} \times \text{一月当たり稼働日 (日/ヶ月)})} \quad \text{式 2}$$

(b) 工事期間日平均台数とピーク時車両台数の関係

各会場におけるピーク時の工事用車両台数は、既存事例における工事期間日平均台数とピーク時車両台数の関係から想定することとした。

表 5-8-7(p5-8-17) の既存事例における工事期間日平均台数 (d) とピーク時車両台数の関係は、図 5-8-5 に示すとおりである。この結果から得られた関係式 (式 3) を用いて各会場におけるピーク時工事用車両台数を想定した。

$$\text{ピーク時車両台数}(e) \text{ (台/日)} = 1.8500 \times [\text{工事期間日平均台数}(d) \text{ (台/日)}] \quad \text{式 3}$$

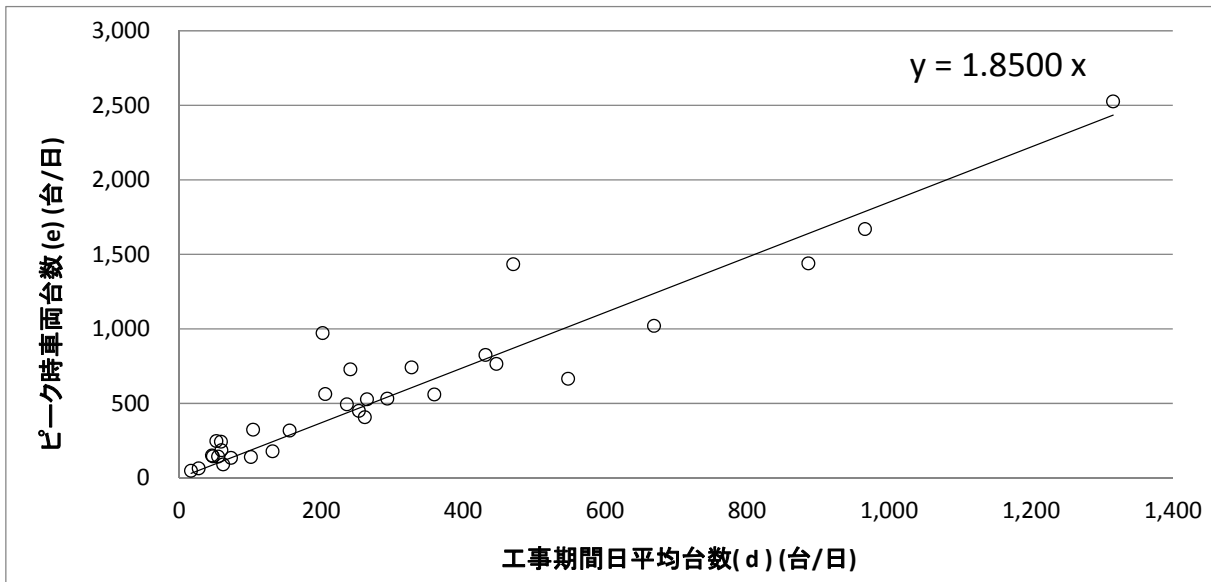


図 5-8-5 工事期間と工事期間日平均台数に占めるピーク時車両台数の関係

(r) 工事用車両の走行に伴う道路交通騒音レベルの設定

各会場における工事用車両の走行に伴う道路交通騒音レベルは、既存事例におけるピーク時工事用車両台数と工事用車両の走行に伴う騒音レベルの関係を用いて予測することとした。

なお、この検討においては表 5-8-5(p5-8-10～5-8-15) に示す事例のうち、評価項目として選定されておらず予測結果が記載されていない事例 D、G、O、AG を除く 27 事例を対象として整理することとした。

既存事例におけるピーク時工事用車両台数と騒音レベルについて整理した結果は、表 5-8-8 に示すとおりであり、ピーク時の工事用車両台数 8~2,866 台/日の範囲において、騒音レベル増加分は 2 dB 以下であった。

したがって、ピーク時工事用車両台数 2,800 台/日を目安として、それより少ない場合は車両台数に係わらず、騒音レベルの増分は 2 dB 以下とする。

表 5-8-8(1) 既存事例におけるピーク時工事用車両台数と騒音レベルの状況

事例番号	地点	方向	ピーク時 車両台数 (台/日)	時間 区分	道路工事予測結果 (L _{Aeq})		
					工事中基礎 交通量 (dB)	工事中 交通量 (dB)	騒音レベル 増加分 (dB)
A	No. 1	北側	1,213	昼間	67.0	68.0	1
		南側	1,213	昼間	67.0	68.0	1
	No. 2	西側	1,219	昼間	66.0	66.0	<1
	No. 3	北側	1,896	昼間	71.0	71.0	<1
南側		1,896	昼間	71.0	72.0	1	
B	3	西行	178	昼間	70.7	70.9	<1
		東行	178	昼間	70.9	71.1	<1
	5	南行	178	昼間	73.6	73.7	<1
		北行	178	昼間	75.1	75.2	<1
C	No. 1	北東側	618	昼間	60.0	60.0	<1
	No. 4	北東側	1,860	昼間	65.0	65.0	<1
	No. 5	南東側	618	昼間	67.0	68.0	1
E-1	A	道路端	242	昼間	68.2	69.1	<1
F	No. 1	西側	178	昼間	70.1	70.2	<1
		東側	178	昼間	70.2	70.2	<1
	No. 2	北側	356	昼間	66.0	66.1	<1
		南側	356	昼間	66.0	66.4	<1
	No. 3	北側	178	昼間	69.0	69.1	<1
		南側	178	昼間	69.0	69.1	<1
H	No. 1	西	764	昼間	72.5	72.8	<1
		東	764	昼間	72.5	72.8	<1
	No. 2	西	764	昼間	70.8	71.3	<1
		東	764	昼間	71.4	71.9	<1
	No. 4	南	382	昼間	67.9	68.5	<1
		北	382	昼間	68.0	68.9	<1
I	No. 1	西	972	昼間	72.9	73.4	<1
		東	972	昼間	73.0	73.5	<1
	No. 2	西	972	昼間	72.4	72.9	<1
		東	972	昼間	72.5	73.1	<1
	No. 4	南	730	昼間	67.3	67.9	<1
		北	730	昼間	67.3	67.8	<1
J	a	北	361	昼間	67.4	67.4	<1
		南	361	昼間	67.4	67.5	<1
	b	北	897	昼間	69.7	69.8	<1
		南	897	昼間	69.7	69.8	<1
	c	東	175	昼間	64.3	64.5	<1
		西	175	昼間	64.3	64.6	<1
	f	東	351	昼間	65.5	65.7	<1
		西	351	昼間	65.5	65.6	<1
K	No. 1	西	528	昼間	75.4	75.6	<1
		東	528	昼間	75.7	75.8	<1
	No. 2	西	526	昼間	75.3	75.5	<1
		東	526	昼間	75.6	75.8	<1
L	No. 1	南側	104	昼間	77.0	77.0	<1
	No. 1	北側	104	昼間	76.0	76.0	<1
	No. 2	南側	104	昼間	76.0	76.0	<1
	No. 2	北側	104	昼間	77.0	77.0	<1
M	7	北東側	550	昼間	65.0	66.0	1
	7	南西側	550	昼間	65.0	66.0	1
N	No. 1	-	145	昼間	75.2	75.3	<1
	No. 1	東側	452	昼間	64.0	65.0	1
P	No. 1	西側	452	昼間	64.0	65.0	1
	No. 5	北側	452	昼間	67.0	67.0	<1
	No. 5	南側	452	昼間	67.0	67.0	<1
	No. 6	北側	452	昼間	67.0	68.0	1
	No. 6	南側	452	昼間	67.0	68.0	1
	No. 6	南側	452	昼間	67.0	68.0	1

注) ピーク時車両台数とは、事業工事に伴い発生する工事車両のうち各予測地点を通過する交通量とした。

表 5-8-8(2) 既存事例におけるピーク時工事用車両台数と騒音レベルの状況

事例 番号	地点	方向	ピーク時 車両台数 (台/日)	時間 区分	道路工事予測結果 (L _{Aeq})		
					工事中基礎 交通量 (dB)	工事中 交通量 (dB)	騒音レベル 増加分 (dB)
Q	No. 1	-	86	昼間	68.3	68.4	<1
	No. 2	-	86	昼間	67.4	67.4	<1
	No. 3	-	8	昼間	70.6	70.6	<1
R	a	北側	144	昼間	75.9	76.0	<1
	a	南側	144	昼間	76.4	76.4	<1
	b	北側	146	昼間	75.8	75.9	<1
	b	南側	146	昼間	75.3	75.3	<1
S	f	北東側	300	昼間	71.0	72.0	1
T	-	-	126	昼間	67.1	67.4	<1
U	1	-	27	昼間	63.0	63.0	<1
	2	-	26	昼間	64.0	64.0	<1
	3	-	346	昼間	65.0	65.0	<1
	4	-	2,682	昼間	72.0	72.0	<1
V	B	北東	247	昼間	70.2	70.3	<1
	B	南西	247	昼間	70.2	70.2	<1
	D	東	247	昼間	65.3	65.4	<1
	D	西	247	昼間	65.3	65.4	<1
	F	北	246	昼間	69.0	69.2	<1
	F	南	246	昼間	69.0	69.1	<1
	G	東	246	昼間	69.7	69.8	<1
W	A	-	79	昼間	65.6	65.7	<1
	B	-	323	昼間	69.8	70.1	<1
	C	-	79	昼間	66.1	66.3	<1
	D	-	79	昼間	65.5	65.7	<1
	E	-	503	昼間	71.2	71.7	<1
	F	-	371	昼間	68.6	69.0	<1
	G	-	359	昼間	69.0	69.3	<1
	H	-	359	昼間	70.8	71.1	<1
X	No. 1	-	130	昼間	68.8	69.0	<1
	No. 1	-	130	夜間	66.7	67.0	<1
	No. 2	-	181	昼間	70.2	70.2	<1
	No. 2	-	181	夜間	68.1	68.2	<1
	No. 3	-	233	昼間	68.8	68.8	<1
	No. 3	-	233	夜間	65.4	65.5	<1
	No. 4	-	181	昼間	70.5	70.5	<1
	No. 4	-	181	夜間	68.6	68.7	<1
	No. 6	-	104	昼間	70.3	70.3	<1
Y	A	-	34	昼間	54.9	55.2	<1
	C	-	318	昼間	62.8	64.4	2
	D	-	318	昼間	63.3	64.0	<1
Z	No. 1	西	578	昼間	68.1	68.5	<1
	No. 1	東	578	昼間	67.8	68.0	<1
	No. 2	西	413	昼間	68.7	68.9	<1
	No. 2	東	413	昼間	68.5	69.0	<1
	No. 3	南	825	昼間	67.0	67.2	<1
	No. 3	北	825	昼間	67.0	67.4	<1
	No. 4	西	660	昼間	64.1	65.0	<1
AA	No. 1	-	2,866	昼間	64.1	64.6	<1
	No. 1	-	2,866	昼間	64.0	66.2	2
AB	No. 1	東	742	昼間	70.4	70.7	<1
	No. 1	西	742	昼間	70.3	70.6	<1
	No. 2	北	741	昼間	64.7	65.4	<1
	No. 2	南	741	昼間	67.8	68.2	<1
	No. 3	東	741	昼間	67.5	68.0	<1
	No. 3	西	741	昼間	67.8	68.9	1
	No. 4	東	742	昼間	71.1	71.5	<1
	No. 4	西	742	昼間	71.3	71.5	<1
	No. 5	北	666	昼間	67.1	67.8	<1
	No. 5	南	666	昼間	67.7	68.8	1
AC	No. 1	南	286	昼間	67.5	67.5	<1
	No. 1	北	286	昼間	67.7	67.8	<1
	No. 2	西	849	昼間	75.4	75.6	<1
	No. 2	東	849	昼間	75.1	75.6	<1
	No. 3	南	286	昼間	62.7	63.5	<1
	No. 6	北	429	昼間	67.9	68.1	<1
AE	No. 1	-	19	昼間	67.2	67.2	<1
	No. 2	-	341	昼間	73.1	73.2	<1
	No. 3	-	233	昼間	62.2	62.8	<1

注) ピーク時車両台数とは、事業工事に伴い発生する工事車両のうち各予測地点を通過する交通量とした。

③ 建設機械の稼働に伴う影響の予測方法

建設機械の稼働に伴って発生する騒音レベルは、各会場において建設機械の稼働台数がピークとなる時に発生する騒音レベルについて予測を行った。

予測は、既存事例におけるピーク時の建設機械稼働台数と騒音レベルの関係から得られた関係式等と各会場で想定したピーク時の建設機械稼働台数から予測することとした。

予測の手順は、図 5-8-6 に示すとおりである。

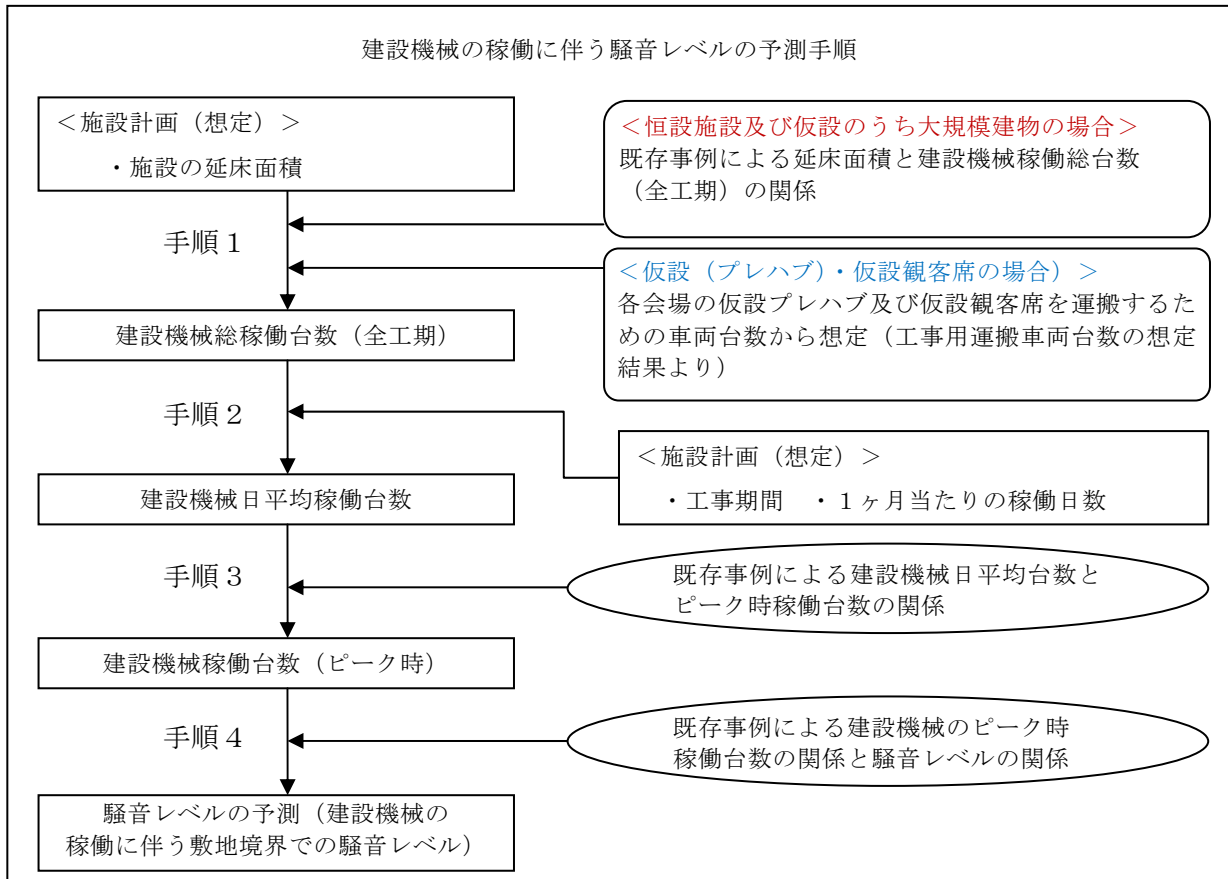


図 5-8-6 建設機械の稼働に伴う騒音レベルの予測手順

(イ) 建設機械稼働台数の設定

各会場における建設機械のピーク時の稼働台数については、既存事例における建物の延床面積、工事期間、建設機械稼働台数（期間合計、日平均稼働台数、ピーク時）の関係と各会場における延床面積、工事期間等から想定した。

既存事例について建物の延床面積、工事期間、建設機械稼働台数（期間合計、日平均稼働台数、ピーク時）について整理した結果は、表 5-8-9 に示すとおりである。

なお、この検討においては表 5-8-5(p5-8-10～5-8-15)に示す事例のうち、工事期間が13年間と長期工事である事例B、土壌汚染対策関連機械が多い特殊な工事である事例C、貯水池の大規模な覆蓋工事を伴う特殊な工事である事例AB、工事期間合計稼働台数が不明確な事例AE等は不適な事例と判断し、それら不適な事例を除外した26事例を対象として整理することとした。

表 5-8-9 既存事例における延床面積と建設機械の稼働台数の状況

事例名	延床面積 (a)	工事期間 (b)	1ヶ月 当たりの 工事日数	工事期間 合計稼働台数 (f)	工事期間 日平均 稼働台数	ピーク時 稼働台数
	(m ²)	(ヵ月)	(日)	(台)	(台/日)	(台/日)
A	335,000	48	22	53,658	51	116
D	5,339	12	25	824	3	12
E-1	27,897	27	25	2,826	4	12
E-2	19,751	22	25	2,160	4	13
F	134,450	47	25	17,365	15	64
H	249,000	34	20	16,380	24	55
I	107,300	21	25	7,742	15	55
J	93,300	13	20	5,260	20	43
K	140,600	14	25	7,000	20	35
L	95,300	8	25	2,300	12	19
M	98,600	11	25	3,175	12	22
N	33,100	13	20	2,636	10	22
O-1	12,757	11	27	891	3	6
O-2	6,151	9	27	459	2	3
P	135,812	10	21	3,769	18	25
Q	82,000	8	26	3,957	19	36
R	63,700	10	21	959	5	11
S	50,500	12	25	3,880	13	28
T	9,600	21	25	2,950	6	9
U	631,800	45	25	69,250	62	220
V	181,000	39	25	56,275	58	127
W	230,000	42	26	48,048	44	85
X	200,000	51	26	14,742	11	29
Y	186,000	49	25	16,125	13	33
Z	215,000	33	26	18,720	22	59
AA	170,000	42	26	17,446	16	42
AC	168,000	42	25	54,525	52	93
AD	200,200	48	25	26,750	47	83

注1) 事例Eと事例Oについては、I期工事分とII期工事分をそれぞれ別々に整理した。

注2) 工事期間日平均稼働台数 = 工事期間合計稼働台数 / (工事期間 × 1月当たり工事日数)

(a) 延床面積と建設機械稼働台数（工事期間合計）の関係

各会場のうち、恒久施設及び仮設（プレハブを除く）建物を建設する際の建設機械稼働台数（工事期間合計）は、既存事例における延床面積と工事期間合計稼働台数の関係と各会場の延床面積から想定することとした。

表 5-8-9 (p5-8-23)の既存事例における延床面積（a）と工事期間合計稼働台数（f）の関係は、図 5-8-7 に示すとおりであり、この結果から得られた関係式（式4）を用いて、各会場における工事中の建設機械稼働台数（工事期間合計）を想定した。

$$\text{工事期間合計稼働台数 (f)} = 0.1285 \times [\text{延床面積 (m}^2\text{)}] \text{ (a)} \quad \text{式 4}$$

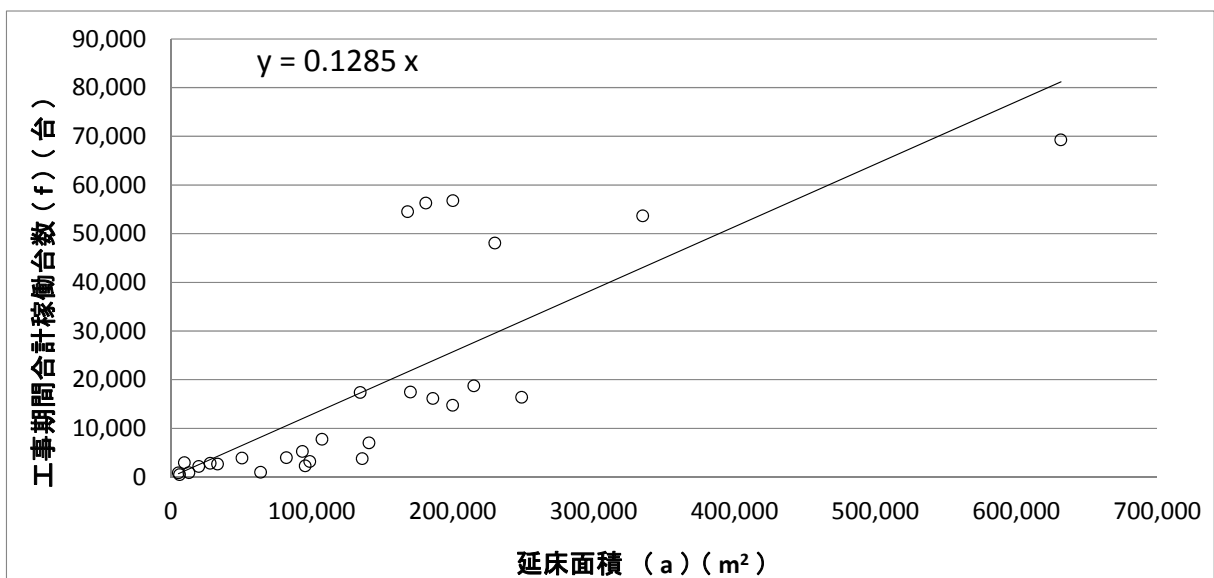


図 5-8-7 既存事例における延床面積と工事期間合計稼働台数の関係

なお、各会場における仮設建物のうちプレハブや観客席の設置に係る工事については、プレハブや組立式の仮設観客席を設置するための建設機械の稼働台数（工事期間合計）について以下の方法で設定することとした。

したがって、工事期間合計稼働台数は、式4で求めた建設機械稼働台数に仮設のプレハブ及び観客席の設置に伴う建設機械稼働台数を足し合わせて設定した。

<仮設プレハブ、仮設観客席の設置に伴う建設機械稼働台数設定の方法>

「(i) 工車用車両台数の設定 (a) 延床面積と工車用車両台数(工事期間合計)の関係」に示す方法 (p5-8-18) で仮設プレハブ及び仮設観客席の運搬に伴う工車用車両台数を想定し、その工車用車両台数と同じ台数のクレーンが稼働するものと想定する。

したがって、仮設プレハブ、仮設観客席の運搬に伴う大型トラックの台数を 100 台と設定した場合には、建設機械（仮設プレハブ、仮設観客席の配置に用いるクレーン）も 100 台稼働するものと設定する。

工事期間日平均稼働台数(台/日)

$$= \frac{([\text{工事期間合計稼働台数}(f)(\text{台})] + [\text{仮設プレハブ・観客席工事分稼働台数}](\text{台}))}{(\text{工事期間}(b)(\text{ヶ月}) \times \text{一月当たり稼働日}(\text{日/ヶ月}))} \quad \text{式5}$$

(b) 工事期間合計稼働台数とピーク時稼働台数の関係

各会場におけるピーク時の建設機械稼働台数は、既存事例における工事期間合計稼働台数とピーク時稼働台数の関係から想定することとした。

表 5-8-9 (p5-8-23)の既存事例における工事期間日平均稼働台数とピーク時稼働台数の関係は、図 5-8-8 に示すとおりである。この結果から得られた関係式(式6)を用いてピーク時建設機械稼働台数を想定した。

$$\text{ピーク時稼働台数(台/日)} = 2.3653 \times \text{工事期間日平均稼働台数(台/日)} \quad \text{式6}$$

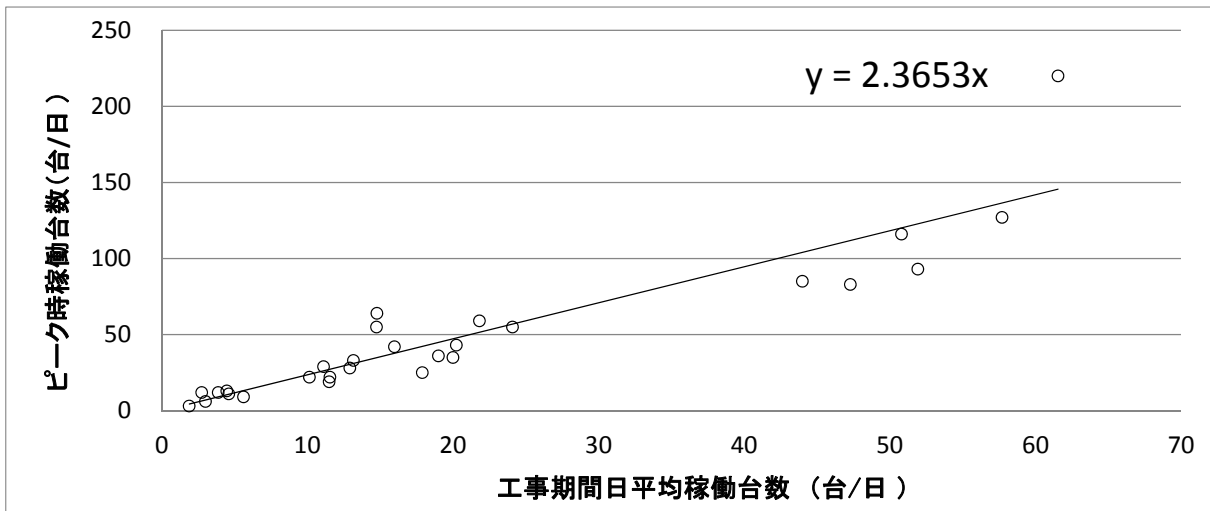


図 5-8-8 工事期間と工事期間合計稼働台数に占めるピーク時稼働台数の関係

(ロ) 建設機械の稼働に伴って発生する騒音レベルの設定

各会場における建設機械の稼働に伴って発生する騒音レベルは、既存事例における建設機械稼働台数、敷地面積を用いて推定した騒音レベルと既存事例で予測された騒音レベルの関係を用いて予測することとした。

なお、この検討においては表 5-8-5(p5-8-10～5-8-15)に示す事例のうち、土壌汚染対策関連機械が多い事例 C、ビル解体工事を評価している事例 X、評価項目として選定されておらず予測結果が記載されていない事例 A 等は不適な事例と判断し、それら不適な事例を除外した 21 事例を対象として整理することとした。

既存事例における予測された騒音レベル、建設機械稼働台数、敷地面積及び稼働建設機械の種類について整理した結果は表 5-8-10 に示すとおりである。これらの事例を用いて、点音源の距離減衰式を当てはめることで建設機械稼働台数及び敷地面積から騒音レベル推定を算出した。騒音レベル推定値の算出方法は、1 台当たり音響パワーレベルを一定値としてピーク時稼働台数分を積算し、事例全体の音源を点音源とみなして算出した「音響パワーレベル」及び、敷地面積の平方根の半分として算出した「音源からの平均距離」を点音源の距離減衰式に当てはめて算出した。

以上の算出方法により得られた各事例の騒音レベル推定値は表 5-8-11 に示した通りであり、既存事例に示されている騒音レベルの予測値と推定値の相関は図 5-8-9 (p5-8-27) となった。この結果から得られた関係式(式 7)を用いて各会場の敷地境界騒音レベル (dB) を想定した。

注 5：1 台当たり音響パワーレベルは、注 2 の式により算出した「騒音レベル推定値」の平均値が、「騒音レベル予測結果」の平均値と等しくなる値として 106 (dB) を設定した。

$$\text{予測値 (dB)} = 0.431 \times \text{騒音レベル推定値 (dB)} + 41.027 \quad \text{式 7}$$

但し、騒音レベル推定値 (dB) = [音響パワーレベル] - 20 × log([音源からの平均距離]) - 8

音響パワーレベル = 10 × log(10[^] ([1 台当たり音響パワーレベル]/10) × [ピーク時稼働台数])、

1 台当たり音響パワーレベルは 106 (dB) とした (表 5-8-11 (p5-8-28 参照))。また、音源からの平均距離 = ([敷地面積 (m²)][^] 0.5) / 2 とした。

表 5-8-10 最大騒音レベル及び各事例の工事状況

事例番号	敷地境界における騒音レベル (dB)	敷地面積 (m ²)	敷地境界における騒音レベルが最大となる工事の際の建設機械種 (日稼働台数)
B	68	345,400	油圧破碎機(23台)、バックホウ(7台)、トラクターショベル(8台)、ブルドーザー(8台)
D	75	21,693	油圧クレーン(1台)、ロードローラー(1台)、バックホウ(2台)、ブルドーザー(1台)
F	74	29,890	発電機(4台)、バックホウ(16台)、クラムシェル(8台)、コンプレッサー(12台)、ハンドブレイカー(24台)
H	72	17,100	バックホウ(35台)、クラムシェル(2台)、クローラクレーン(3台)、ラフタークレーン(6台)、ポンプ車(9台)、生コン車(9台)
I	75	32,400	バックホウ(15台)、トラッククレーン 100 t (2台)、ラフタークレーン 50 t (3台)、ラフタークレーン 25 t (3台)、ハンドブレイカー(30台)、ポンプ車(2台)、生コン車(4台)
K	77	44,505	中堀式杭打機(6台)、三点式杭打機(3台)、アースオーガ(3台)、バックホウ(16台)、クローラクレーン 80 t (4台)、ラフタークレーン 50 t (3台)
L	65	96,800	バックホウ(8台)、ダンプトラック(4台)、コンクリートポンプ車(1台)
M	66	55,700	ラフタークレーン 50 t (1台)、ラフタークレーン 25 t (1台)、三点式杭打機(5台)、アースオーガ(5台)、バックホウ(10台)
P	74	132,000	バックホウ(10台)、ラフタークレーン 25 t (3台)、ラフタークレーン 50 t (11台)、コンクリートポンプ車(2台)
Q	70	38,000	バックホウ(10台)、ダンプ(10台)、ラフタークレーン(1台)、三点式杭打機(2台)、発電機(2台)、大型ポンプ車(1台)
R	59	72,000	バックホウ(5台)、トラッククレーン 50 t (2台)、トラッククレーン 25 t (4台)
S	79	27,800	ラフタークレーン 50 t (2台)、ラフタークレーン 25 t (1台)、コンクリートポンプ車(2台)、生コンクリート車(2台)、高所作業車(3台)
T	72	52,481	油圧ニブラー(1台)、バックホウ(1台)
U	66	192,100	油圧ショベル(29台)、コンクリート圧碎機(8台)、ジャイアントブレイカー(6台)、三点支持式杭打機(4台)、アースドリル(6台)、グラウトミキサー(14台)、クローラクレーン(4台)、発電機(10台)
V	79	16,200	コンクリート破碎機(30台)、大型ブレイカー(23台)、杭打機(1台)、バックホウ(43台)、コンプレッサー(3台)、コンクリートポンプ車(5台)、クローラクレーン 80 t (4台)、クローラクレーン 50 t (1台)、ラフタークレーン 50 t (3台)、ラフタークレーン 25 t (12台)
W	72	39,700	バックホウ(54台)、クラムシェル(4台)、破碎機(4台)、コンプレッサー(7台)、ラフタークレーン 60 t (2台)、クローラクレーン 80 t (4台)、クローラクレーン 150 t (2台)、発電機(8台)
Y	76	16,700	クローラクレーン 50 t (7台)、バックホウ(6台)、アースドリル(5台)、SMW三軸掘削機(5台)、発電機(10台)
AA	78	25,200	バックホウ(10台)、発電機(2台)、コンクリートポンプ車(7台)、クラムシェル(5台)、クローラクレーン 80 t (3台)、クローラクレーン 50 t (2台)、油圧クレーン(2台)、フォークリフト(4台)
AB	73	49,500	油圧ショベル(25台)、クラムシェル(8台)、ラフタークレーン(5台)、クローラクレーン(8台)、コンクリート圧碎機(4台)、コンクリートポンプ車(5台)、ユニック車(1台)
AD	76	19,200	バックホウ(20台)、クラムシェル(2台)、油圧破碎機(8台)、ジャイアントブレイカー(2台)、クローラクレーン(3台)、ラフタークレーン(3台)、発電機(2台)
AE	71	32,900	バックホウ(36台)、クラムシェル(12台)、コンプレッサー(25台)、ラフタークレーン(4台)
最大	79	345,400	
平均	72	64,632	

注1) 敷地境界までの距離とは、複数の稼働機械と敷地境界までの距離における最小値を示している。

注2) 敷地境界までの距離において、数値に約と併記の場合は配置図の読取値のため誤差があるため留意が必要である。

表 5-8-11 既存事例における建設機械台数および敷地面積を用いた騒音レベルの推定値

事例 番号	敷地境界にお ける騒音レベ ル予測結果	ピーク時 稼働台数	敷地面積	音源中心から の平均距離の 推定値	敷地境界にお ける騒音レベ ルの推定値
	(dB)	(台/日)	(m ²)	(m)	(dB)
B	68	46	345,400	294	65.3
D	75	5	21,693	74	67.6
F	74	64	29,890	86	77.3
H	72	64	17,100	65	79.8
I	75	59	32,400	90	76.6
K	77	35	44,505	105	73.0
L	65	13	96,800	156	65.3
M	66	22	55,700	118	70.0
P	74	26	132,000	182	67.0
Q	70	26	38,000	97	72.4
R	59	11	72,000	134	65.9
S	79	10	27,800	83	69.6
T	72	2	52,481	115	59.8
U	66	81	192,100	219	70.3
V	79	125	16,200	64	82.9
W	72	85	39,700	100	77.3
Y	76	33	16,700	65	77.0
AA	78	35	25,200	79	75.4
AB	73	56	49,500	111	74.6
AD	76	40	19,200	69	77.2
AE	71	77	32,900	91	77.7

注1：敷地境界における騒音レベル予測結果、ピーク時稼働台数及び敷地面積は、既存事例の環境影響評価書に記載された値である。

注2：敷地境界における騒音レベル推定値(dB) = [音響パワーレベル] - 20 × log([音源中心からの平均距離]) - 8

注3：音響パワーレベル = 10 × log(10[^] ([1台当たり音響パワーレベル]/10) × [ピーク時稼働台数])

注4：音源中心からの平均距離推定値 = (敷地面積^{0.5}) / 2 と仮定した。

注5：1台当たり音響パワーレベルは、注2の式により算出した「騒音レベル推定値」の平均値が、「騒音レベル予測結果」の平均値と等しくなる値として106(dB)を設定した。

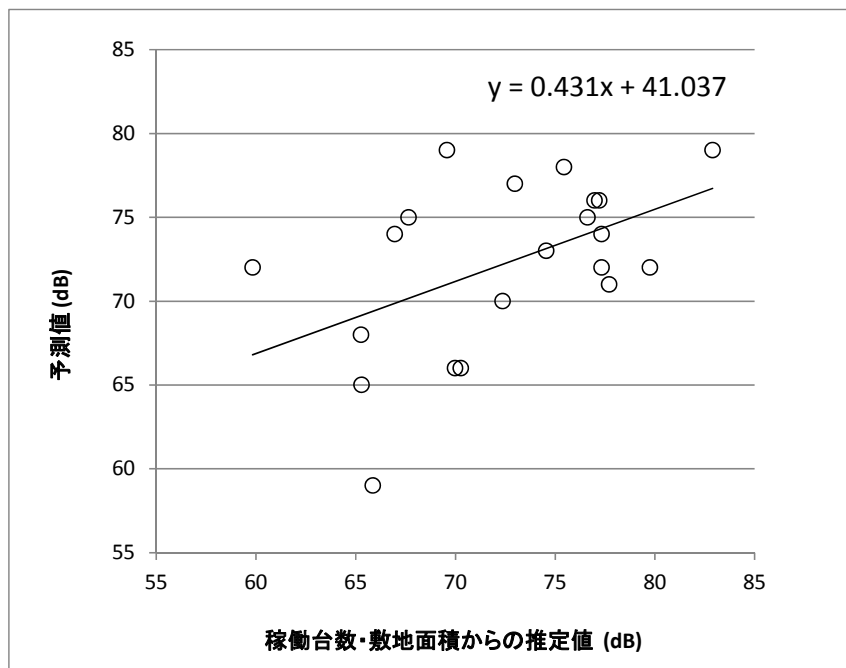


図 5-8-9 既存事例における予測値と推定値の関係

④ 予測のための条件設定

(イ) 延床面積の設定

各会場において建設する施設の延床面積は現段階の計画に基づき、表 5-8-12(p5-8-30)に示すとおり設定した。

(ロ) 工事期間・一月当たりの稼働日数の設定

各会場における施設建設にかかる工事期間は、表 5-8-12(p5-8-30)に示すとおりである。
各会場における工事期間（開催前及び開催後）については、現時点での計画に基づく工事期間に準じて設定した。なお、一月当たりの稼働日数（工事の実施日数）は、いずれの会場においても25日間とした。

(ハ) 工事用車両台数

各会場における延床面積、工事期間、一月当たりの稼働日数の値に既存事例の整理結果から求めた関係式等を用いて設定した各会場におけるピーク時の工事用車両台数は、表 5-8-13(p5-8-31)に示すとおりである。

(ニ) 建設機械稼働台数

各会場における延床面積、工事期間、一月当たりの稼働日数の値に既存事例の整理結果から求めた関係式等を用いて設定した各会場におけるピーク時の建設機械稼働台数は、表 5-8-14 (p5-8-32)に示すとおりである。

○工事用車両台数の算定に用いる式

$$\text{工事期間合計車両台数}(c) = 1.9223 \times [\text{延床面積}(m^2)] \quad \text{式 1}$$

$$\text{工事期間日平均台数}(d) =$$

$$\frac{([\text{工事期間合計車両台数}(c)] + [\text{仮設プレハブ・観客席工事分車両台数}])}{(\text{工事期間}(ヶ月) \times \text{一月当たりの工事日数}(日/ヶ月))} \quad \text{式 2}$$

(注：仮設プレハブ及び観客席工事分は、p5-8-18に示す方法により別途算定する)

$$\text{ピーク時車両台数} = 1.8500 \times [\text{工事期間日平均台数}(台)(d)] \quad \text{式 3}$$

○工事用車両の走行に伴う騒音レベル増加分の算定方法

ピーク時工事用車両が2,800台/日より少ない場合の騒音レベル増加分は2dB以下とする

○建設機械稼働台数の算定に用いる式

$$\text{工事期間合計稼働台数}(f) = 0.1285 \times [\text{延床面積}(m^2)] \quad \text{式 4}$$

$$\text{工事期間日平均稼働台数}$$

$$= \frac{([\text{工事期間合計稼働台数}(f)] + [\text{仮設プレハブ・観客席工事分稼働台数}])}{(\text{工事期間}(ヶ月) \times \text{一月当たり稼働日}(日/ヶ月))} \quad \text{式 5}$$

(注：仮設プレハブ及び観客席工事分は、p5-8-24に示す方法により別途算定する)

$$\text{ピーク時車両台数} = 2.3653 \times \text{工事期間日平均稼働台数}(台/日)] \quad \text{式 6}$$

○建設機械の稼働に伴って発生する騒音レベルの算定方法

$$\text{予測値}(dB) = \text{騒音レベル}(dB) = 0.431 \times \text{騒音レベル推定値}(dB) + 41.037 \quad \text{式 7}$$

但し、騒音レベル推定値(dB)=[音響パワーレベル]-20×log([音源からの平均距離])-8

音響パワーレベル=10×log(10^([1台当たり音響パワーレベル]/10)×[ピーク時稼働台数])、

1台当たり音響パワーレベル=106(dB)、音源からの平均距離=([敷地面積(m2)]^0.5) / 2 とした。

表 5-8-12 予測条件の設定結果

会場 No	施設名称	敷地面積 (m ²)	工事対象構造物 の延床面積 (m ²)				観客席数 (席)		工事期間及び稼働日数			
			恒設 延床面積	仮設 延床面積		総数	仮設数	開催前		開催後 (仮設撤去)		
				プレハブ 以外	プレハブ			工事期間 (ヵ月)	一月当たりの 稼働日数 (日/1ヵ月)	工事期間 (ヵ月)	一月当たりの 稼働日数 (日/1ヵ月)	
1	オリンピックスタジアム(国立霞ヶ丘競技場)	113,000	290,000	0	2,800	80,000	0	55	25	4	25	
2	東京体育館	46,000	0	0	970	8,080	2,080	3	25	4	25	
3	国立代々木競技場	91,000	0	2,800	3,800	12,000	2,800	3	25	4	25	
4	日本武道館	13,000	1,005	0	4,600	11,000	400	21	25	4	25	
5	皇居外苑	106,000	0	0	7,170	1,000	1,000	2	25	4	25	
6	東京国際フォーラム	27,000	0	0	0	5,000	0	-	-	-	-	
7	国技館	18,000	0	1,560	2,020	10,000	5,000	4	25	4	25	
8	有明アリーナ	39,000	41,400	0	700	15,000	2,300	43	25	4	25	
9	有明BMXコース	100,000	0	7,350	0	5,000	5,000	24	25	4	25	
10	有明ベドローム		0	25,000	0	5,000	5,000	24	25	4	25	
11	有明体操競技場	96,000	0	29,100	1,600	12,000	12,000	24	25	4	25	
12	有明テニスの森	163,000	17,760	0	1,850	20,500	4,500	21	25	4	25	
13	お台場海浜公園	75,000	0	0	6,100	10,000	10,000	24	25	4	25	
14	潮風公園	155,000	0	0	7,205	12,000	12,000	24	25	4	25	
15~16	東京ビッグサイト・ホールA、B	243,000	0	0	14,770	19,000	19,000	15	25	4	25	
17	大井ホッケー競技場	282,000	4,745	0	3,694	15,000	11,000	31	25	4	25	
18	海の森クロスカントリーコース	880,000	0	1,635	7,620	0	0	24	25	4	25	
19	海の森水上競技場	289,000	9,350	0	11,845	14,000	12,000	49	25	4	25	
20	海の森マウンテンバイクコース	642,000	0	0	7,350	2,000	2,000	24	25	4	25	
21	若洲オリンピックマリナー	39,000	1,950	0	7,140	2,000	2,000	48	25	4	25	
22	葛西臨海公園	806,000	845	0	7,235	12,000	12,000	31	25	4	25	
23~24	夢の島ユース・プラザ・アリーナA、B	343,000	84,470	0	1,500	25,000	2,990	35	25	4	25	
25	夢の島公園		0	0	14,780	7,000	7,000	25	25	4	25	
26	夢の島競技場		226,000	0	11,495	11,696	14,000	12,400	15	25	4	25
27~28	オリンピックアクアティクスセンター ウォーターポロアリーナ	124,000	43,180	49,810	4,200	26,500	21,300	45	25	4	25	
29	武蔵野の森総合スポーツ施設	66,000	0	0	0	8,000	1,400	39	25	4	25	
30	東京スタジアム	177,000	0	0	1,600	50,000	0	3	25	4	25	
31	武蔵野の森公園	347,000	0	0	6,941	1,000	1,000	3	25	4	25	
32	陸上自衛隊朝霞訓練場	235,000	0	11,295	5,500	7,600	7,600	14	25	4	25	
33	霞ヶ関カンツリークラブ	1,361,000	0	0	5,180	1,000	1,000	3	25	4	25	
34	札幌ドーム	305,000	0	0	2,390	41,000	0	3	25	4	25	
35	宮城スタジアム	1,244,000	0	0	1,200	50,000	0	3	25	4	25	
36	埼玉スタジアム2002	300,000	0	0	4,490	64,000	0	3	25	4	25	
37	横浜国際総合競技場	164,000	0	0	3,510	72,000	0	3	25	4	25	
0V	選手村	443,000	368,315	13,000	109,730	0	0	43	25	13	25	
IBC/MPC	東京ビッグサイト(IBC/MPC)	243,000	45,700	0	0	0	0	24	25	-	-	

注1：会場 No. は、表 1-3-37 (p1-85~1-86) に示す会場 No. に準ずる。

注2：工事対象構造物の延床面積には、建物以外の構造物（歩行者デッキ等）の面積を含む。

注3：観客席の総数は恒設分、既存施設分、仮設分の総数で、立ち見席は含めていない。

なお、影響予測の条件として、恒設分は各建物の延床面積に含まれているものとし、仮設分のみ別途対象とした。

注4：工事期間については、各会場の現時点における工事計画に基づく期間に準じて設定した。

表 5-8-13 工事中車両の設定結果

会場 No	会場名	工事対象構造物 の延床面積(m ²)			観客席数 (席)	工事中車両台数 延べ台数(台)			工事中期間及び稼働日数				工事中車両台数				
		恒設 延床面積	仮設 延床面積			仮設数	恒設	仮設		開催前		開催後 (仮設撤去)		開催前		開催後 (仮設撤去)	
			プレハブ 以外	プレハブ	プレハブ 以外			プレハブ	観客席	工事期間	一月当たりの 稼働日数 (日/1ヵ月)	工事期間	一月当たりの 稼働日数 (日/1ヵ月)	工事期間日 平均台数 (台/日)	ピーク時 工事中 車両台数 (台/日)	工事期間日 平均台数 (台/日)	ピーク時 工事中 車両台数 (台/日)
1	オリンピックスタジアム(国立霞ヶ丘競技場)	290,000	0	2,800	0	557,467	0	124	0	55	25	4	25	406	750	1	2
2	東京体育館	0	0	970	2,080	0	0	43	42	3	25	4	25	1	2	1	2
3	国立代々木競技場	0	2,800	3,800	2,800	0	5,382	169	56	3	25	4	25	75	138	56	104
4	日本武道館	1,005	0	4,600	400	1,932	0	204	8	21	25	4	25	4	8	2	4
5	皇居外苑	0	0	7,170	1,000	0	0	318	20	2	25	4	25	7	13	3	6
6	東京国際フォーラム	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7	国技館	0	1,560	2,020	5,000	0	2,999	90	100	4	25	4	25	32	59	32	59
8	有明アリーナ	41,400	0	700	2,300	79,583	0	31	46	43	25	4	25	74	137	1	1
9	有明BMXコース	0	7,350	0	5,000	0	14,129	0	100	24	25	4	25	24	44	142	263
10	有明ベロドローム	0	25,000	0	5,000	0	48,058	0	100	24	25	4	25	80	148	482	891
11	有明体操競技場	0	29,100	1,600	12,000	0	55,939	71	240	24	25	4	25	94	173	563	1,041
12	有明テニスの森	17,760	0	1,850	4,500	34,140	0	82	90	21	25	4	25	65	121	2	3
13	お台場海浜公園	0	0	6,100	10,000	0	0	270	200	24	25	4	25	1	1	5	9
14	潮風公園	0	0	7,205	12,000	0	0	319	240	24	25	4	25	1	2	6	10
15~16	東京ビッグサイト・ホールA、B	0	0	14,770	19,000	0	0	655	380	15	25	4	25	3	5	10	19
17	大井ホッケー競技場	4,745	0	3,694	11,000	9,121	0	164	220	31	25	4	25	12	23	4	7
18	海の森クロスカントリーコース	0	1,635	7,620	0	0	3,143	338	0	24	25	4	25	6	11	35	64
19	海の森水上競技場	9,350	0	11,845	12,000	17,974	0	525	240	49	25	4	25	15	28	8	14
20	海の森マウンテンバイクコース	0	0	7,350	2,000	0	0	326	40	24	25	4	25	1	1	4	7
21	若洲オリンピックマリーナ	1,950	0	7,140	2,000	3,748	0	317	40	48	25	4	25	3	6	4	7
22	葛西臨海公園	845	0	7,235	12,000	1,624	0	321	240	31	25	4	25	3	5	6	10
23~24	夢の島ユース・プラザ・アリーナA、B	84,470	0	1,500	2,990	162,377	0	67	60	35	25	4	25	186	344	1	2
25	夢の島公園	0	0	14,780	7,000	0	0	655	140	25	25	4	25	1	2	8	15
26	夢の島競技場	0	11,495	11,696	12,400	0	22,097	519	248	15	25	4	25	61	113	229	423
27~28	オリンピックアクアティクスセンター ウォーターポロアリーナ	43,180	49,810	4,200	21,300	83,005	95,750	186	426	45	25	4	25	159	295	964	1,783
29	武蔵野の森総合スポーツ施設	0	0	0	1,400	0	0	0	28	39	25	4	25	0	0	0	1
30	東京スタジアム	0	0	1,600	0	0	0	71	0	3	25	4	25	1	2	1	1
31	武蔵野の森公園	0	0	6,941	1,000	0	0	308	20	3	25	4	25	4	8	3	6
32	陸上自衛隊朝霞訓練場	0	11,295	5,500	7,600	0	21,712	244	152	14	25	4	25	63	117	221	409
33	霞ヶ関カンツリークラブ	0	0	5,180	1,000	0	0	230	20	3	25	4	25	3	6	2	5
34	札幌ドーム	0	0	2,390	0	0	0	106	0	3	25	4	25	1	3	1	2
35	宮城スタジアム	0	0	1,200	0	0	0	53	0	3	25	4	25	1	1	1	1
36	埼玉スタジアム2002	0	0	4,490	0	0	0	199	0	3	25	4	25	3	5	2	4
37	横浜国際総合競技場	0	0	3,510	0	0	0	156	0	3	25	4	25	2	4	2	3
0V	選手村	368,315	13,000	109,730	0	708,012	24,990	4,864	0	43	25	13	25	686	1,270	92	170
IBC/MPC	東京ビッグサイト(IBC/MPC)	45,700	0	0	0	87,849	0	0	0	24	25	-	-	146	271	-	-

注：会場 No. は、表 1-3-37 (p1-85~1-86) に示す会場 No. に準ずる。

表 5-8-14 建設機械稼働台数の設定結果

会場 No	会場名	工事対象構造物 の延床面積(m ²)		観客席数 (席)	建設機械稼働台数 工事中 延べ稼働台数 (台)			工工期間及び稼働日数				建設機械稼働台数					
		恒設 延床面積	仮設 延床面積		仮設数	恒設	仮設		開催前		開催後 (仮設撤去)		開催前		開催後 (仮設撤去)		
			プレハブ 以外	プレハブ			プレハブ 以外	プレハブ	観客席	工工期間	一月当たりの 稼働日数 (日/1ヵ月)	工工期間	一月当たりの 稼働日数 (日/1ヵ月)	工工期間 日平均台数 (台/日)	ピーク時 建設機械 稼働台数 (台/日)	工工期間 日平均台数 (台/日)	ピーク時 建設機械 稼働台数 (台/日)
1	オリンピックスタジアム(国立霞ヶ丘競技場)	290,000	0	2,800	0	37,265	0	124	0	55	25	4	25	27	64	1	3
2	東京体育館	0	0	970	2,080	0	0	43	42	3	25	4	25	1	3	1	2
3	国立代々木競技場	0	2,800	3,800	2,800	0	360	169	56	3	25	4	25	8	18	6	14
4	日本武道館	1,005	0	4,600	400	129	0	204	8	21	25	4	25	1	2	2	5
5	皇居外苑	0	0	7,170	1,000	0	0	318	20	2	25	4	25	7	16	3	8
6	東京国際フォーラム	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7	国技館	0	1,560	2,020	5,000	0	200	90	100	4	25	4	25	4	9	4	9
8	有明アリーナ	41,400	0	700	2,300	5,320	0	31	46	43	25	4	25	5	12	1	2
9	有明BMXコース	0	7,350	0	5,000	0	944	0	100	24	25	4	25	2	4	10	25
10	有明ベロドローム	0	25,000	0	5,000	0	3,213	0	100	24	25	4	25	6	13	33	78
11	有明体操競技場	0	29,100	1,600	12,000	0	3,739	71	240	24	25	4	25	7	16	41	96
12	有明テニスの森	17,760	0	1,850	4,500	2,282	0	82	90	21	25	4	25	5	11	2	4
13	お台場海浜公園	0	0	6,100	10,000	0	0	270	200	24	25	4	25	1	2	5	11
14	潮風公園	0	0	7,205	12,000	0	0	319	240	24	25	4	25	1	2	6	13
15~16	東京ビッグサイト・ホールA、B	0	0	14,770	19,000	0	0	655	380	15	25	4	25	3	7	10	24
17	大井ホッケー競技場	4,745	0	3,694	11,000	610	0	164	220	31	25	4	25	1	3	4	9
18	海の森クロスカントリーコース	0	1,635	7,620	0	0	210	338	0	24	25	4	25	1	2	5	13
19	海の森水上競技場	9,350	0	11,845	12,000	1,201	0	525	240	49	25	4	25	2	4	8	18
20	海の森マウンテンバイクコース	0	0	7,350	2,000	0	0	326	40	24	25	4	25	1	1	4	9
21	若洲オリンピックマリーナ	1,950	0	7,140	2,000	251	0	317	40	48	25	4	25	1	1	4	8
22	葛西臨海公園	845	0	7,235	12,000	109	0	321	240	31	25	4	25	1	2	6	13
23~24	夢の島ユース・プラザ・アリーナA、B	84,470	0	1,500	2,990	10,854	0	67	60	35	25	4	25	13	30	1	3
25	夢の島公園	0	0	14,780	7,000	0	0	655	140	25	25	4	25	1	3	8	19
26	夢の島競技場	0	11,495	11,696	12,400	0	1,477	519	248	15	25	4	25	6	14	22	53
27~28	オリンピックアクアティクスセンター ウォーターポロアリーナ	43,180	49,810	4,200	21,300	5,549	6,401	186	426	45	25	4	25	11	26	70	166
29	武蔵野の森総合スポーツ施設	0	0	0	1,400	0	0	0	28	39	25	4	25	0	0	0	1
30	東京スタジアム	0	0	1,600	0	0	0	71	0	3	25	4	25	1	2	1	2
31	武蔵野の森公園	0	0	6,941	1,000	0	0	308	20	3	25	4	25	4	10	3	8
32	陸上自衛隊朝霞訓練場	0	11,295	5,500	7,600	0	1,451	244	152	14	25	4	25	5	12	18	44
33	霞ヶ関カンツリークラブ	0	0	5,180	1,000	0	0	230	20	3	25	4	25	3	8	2	6
34	札幌ドーム	0	0	2,390	0	0	0	106	0	3	25	4	25	1	3	1	3
35	宮城スタジアム	0	0	1,200	0	0	0	53	0	3	25	4	25	1	2	1	1
36	埼玉スタジアム2002	0	0	4,490	0	0	0	199	0	3	25	4	25	3	6	2	5
37	横浜国際総合競技場	0	0	3,510	0	0	0	156	0	3	25	4	25	2	5	2	4
0V	選手村	368,315	13,000	109,730	0	47,328	1,671	4,864	0	43	25	13	25	50	119	20	48
IBC/MPC	東京ビッグサイト(IBC/MPC)	45,700	0	0	0	5,872	0	0	0	24	25	-	-	10	23	-	-

注：会場 No. は、表 1-3-37 (p1-85~1-86) に示す会場 No. に準ずる。

2) 競技の実施（開催中）、後利用（開催後）による影響の予測方法

① 駐車場の利用及び熱源施設の供用に伴う影響

各会場の供用（競技の実施、後利用）に伴う騒音による影響の程度について、現段階においては各競技会場における詳細な施設計画が固まっていないことから、東京都等の条例に基づいて環境影響評価を実施した事業の規模、予測評価の結果等を参考として、競技の実施（開催中）及び後利用時（開催後）における影響の予測評価を行った。

(イ) 予測評価の内容

各会場における施設の供用（競技の実施及び後利用）に伴う騒音による影響の程度についての予測評価の内容は、表 5-8-15 に示すとおりである。

表 5-8-15 予測評価の内容（競技の実施、後利用）

予測項目	予測する事項	予測評価の内容
環境騒音	各会場の駐車場の利用に伴う騒音レベル	駐車場の利用が最大となる時の敷地境界における騒音レベル
	各会場の熱源等施設の供用に伴う騒音レベル	熱源等施設の供用に伴う敷地境界における騒音レベル

(ロ) 駐車場の利用に伴う影響の予想方法

各会場における駐車場の利用に伴って発生する騒音の程度について予測を行った。

予測は、既存事例における1日当たりの駐車場利用台数と騒音レベルの関係式等と各会場で想定した1日当たりの駐車場利用台数から予測することとした。

予測手順は、図 5-8-10 に示すとおりである。

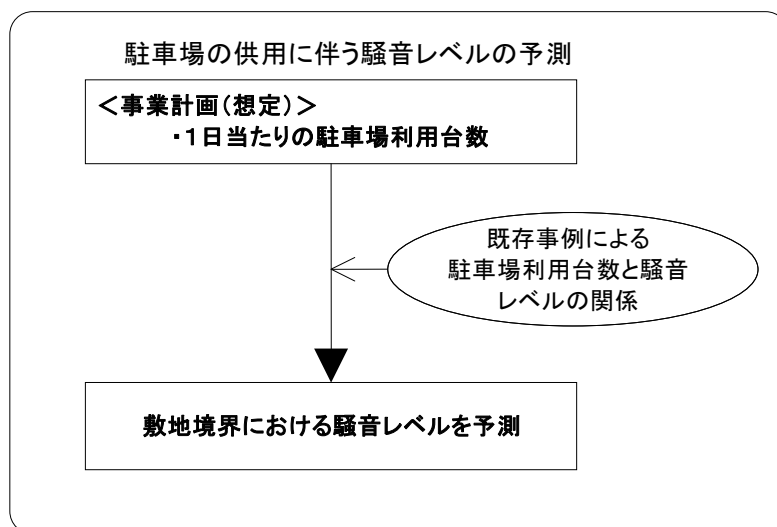


図 5-8-10 駐車場の利用に伴う騒音レベルの予測手順

(a) 駐車場利用台数と騒音レベルの関係

会場における駐車場の利用に伴う騒音レベルは、既存事例における駐車場利用台数と敷地境界における騒音レベル（最大値）の関係を用いて予測することとした。

なお、この検討においては各会場の駐車場の規模等を想定した上で、表 5-8-5(p5-8-10～5-8-15)に示す事例のうち、駐車場利用台数と騒音レベルの関係が記載されている7事例を対象として整理した。

既存事例における1日当たりの駐車場利用台数と敷地境界における騒音レベル(最大値)の関係について整理した結果は、表 5-8-16 及び図 5-8-11 に示すとおりである。

この結果から得られた関係式(式7)を用いて、各会場における駐車場の利用に伴う騒音レベルを想定した。

表 5-8-16 駐車場利用台数と騒音レベルの関係

事例番号	1日当たり 駐車場利用台数 (台/日)	敷地境界における 最大騒音レベル (dB)
I	4,414	49
J	6,300	54.3
L	9,140	54.9
M	6,795	43
Q	5,090	57
R	5,750	53
S	4,787	42

敷地境界における最大騒音レベル(dB)

$$=0.001 \times [\text{駐車場利用台数(台/日)}] + 44.532$$

式7

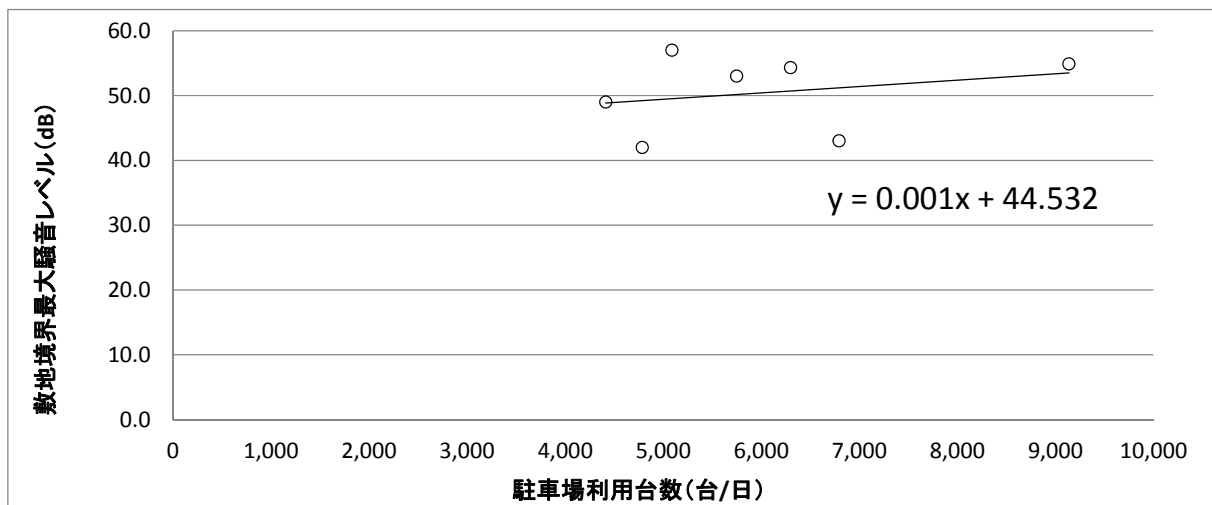


図 5-8-11 駐車場利用台数と騒音レベルの関係

(ハ) 熱源施設の供用と騒音レベルの関係

各会場における熱源等施設の供用（稼働）に伴って発生する騒音の程度について予測を行った。

予測は、既存事例における熱源等施設台数と騒音レベルの関係式等と各会場で想定した熱源等施設台数から予測することとした。

予測手順は、図 5-8-12 に示すとおりである。

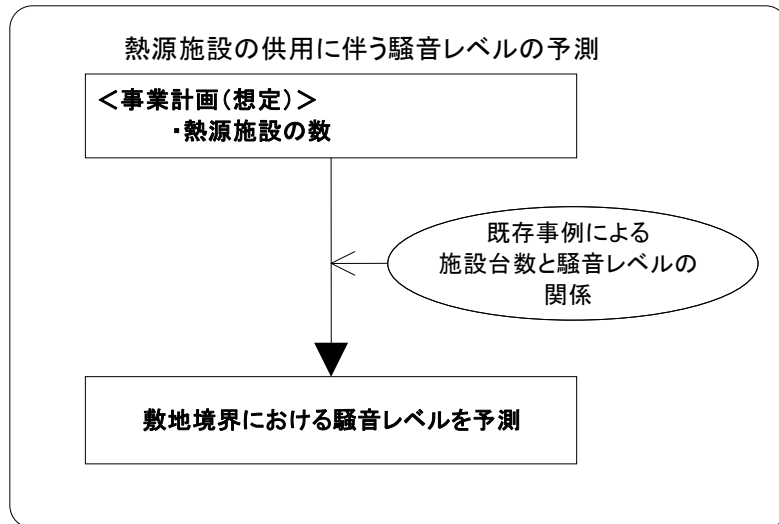


図 5-8-12 熱源等施設の稼働に伴う騒音レベルの予測手順

(a) 熱源施設台数と騒音レベルの関係

各会場における熱源等施設の供用に伴う騒音レベルは、既存事例における熱源等施設台数と敷地境界における騒音レベル（最大値）の関係を用いて予測することとした。

なお、この検討においては各会場の規模等を想定した上で、表 5-8-5 (p5-8-10～5-8-15) に示す事例のうち、熱源施設台数と騒音レベルの関係が記載されている 10 事例を対象として整理した。

既存事例における、熱源等施設からの騒音源の数と敷地境界における騒音レベル（最大値）の関係は、表 5-8-17 (p5-8-36) 及び図 5-8-13 (p5-8-36) に示すとおりである。

この結果から得られた関係式（式 8）を用いて、各会場における熱源等施設の供用に伴う騒音レベルを想定した。

表 5-8-17 熱源等施設等台数と騒音レベルの関係

事例 番号	熱源等施設台数 (台)	敷地境界における 最大騒音レベル (dB)
I	3	21
K	4	24
R	87	39
S	85	44
U	48	48
V	8	49
W	12	41
Y	15	41
AB	16	49
AE	164	59

注) 1. 熱源等施設台数は、冷却塔、空調機、給排気口などの騒音源の数を示す。
2. 各事例における熱源等施設の稼働時間は 24 時間を想定する。

<p>敷地境界における最大騒音レベル (dB)</p> <p>$= 0.129 \times [\text{熱源等施設台数 (台/日)}] + 35.827$</p> <p style="text-align: right;">式 8</p>

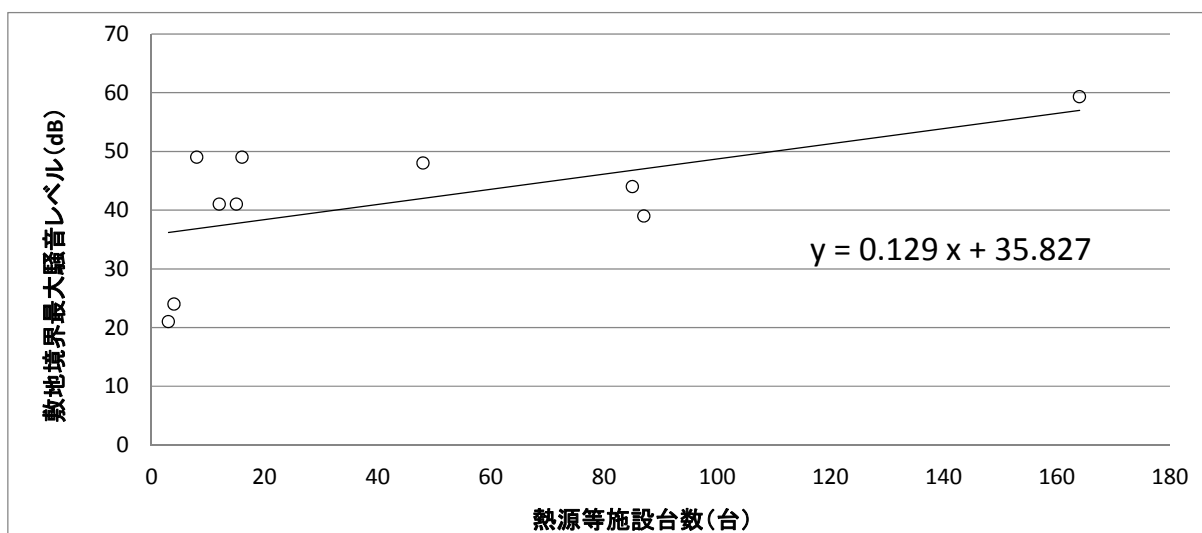


図 5-8-13 熱源等施設の稼働に伴う騒音レベルの予測手順

(c) 予測のための条件設定（競技の実施、後利用）

(a) 1日当たりの駐車場利用台数（最大値）の設定

駐車場の台数は、各会場の計画値を基に、1日当たりの駐車場利用率を考慮して設定した。各会場の利用率は、いずれの場合においても競技実施中のみ利用されるものと想定して、1日最大利用率を100%と設定した。

各会場の1日当たりの駐車場利用台数は、表 5-8-18(p5-8-38)に示すとおりである。

(b) 熱源等施設台数及び1日当たりの稼働時間の設定

熱源等施設の施設台数及び稼働時間の設定は、各会場のうち新設や改築によって大規模な恒久施設の建設を伴うオリンピックスタジアム（国立霞ヶ丘競技場）、有明アリーナ、大井ホッケー競技場、海の森水上競技場、若洲オリンピックマリーナ、葛西臨海公園、夢の島ユース・プラザ・アリーナA、B、夢の島公園、オリンピックアクアティクスセンター、ウォーターポロアリーナ、武蔵野の森総合スポーツ施設、選手村、東京ビッグサイト（IBC/MPC）の14会場を対象として行い、その他の会場については新たな熱源等施設の設置はないものとした。

対象とした会場における熱源等施設台数は、いずれの会場においても既存事例のうちの最大値である164台とし、1日当たりの稼働時間は、最も負荷が大きい場合を想定していずれの会場においても24時間稼働とした。

対象とする会場における熱源等施設の台数は、表 5-8-18(p5-8-38)に示すとおりである。

○駐車場の利用に伴う騒音レベルの算定方法

敷地境界における最大騒音レベル(dB)

$$=0.001 \times [\text{駐車場利用台数(台/日)}] + 44.532$$

式7

○熱源等施設の稼働に伴う騒音レベルの算定方法

敷地境界における最大騒音レベル(dB)

$$=0.129 \times [\text{熱源等施設台数(台/日)}] + 35.827$$

式8

表 5-8-18 1日当たりの駐車場利用台数及び熱源施設台数・稼働時間の設定結果

会場 No	会場名	会場 類型	駐車場台数				駐車場利用台数		熱源施設	
			既存台数 (台)	開催時の 増設台数 (恒設) (台)	開催時の 増設台数 (仮設) (台)	開催後の 増設台数 (恒設) (台)	開催時 利用台数 (台)	後利用時 利用台数 (台)	設置台数 (台)	1日当りの 稼働時間 (h)
1	オリンピックスタジアム(国立霞ヶ丘競技場)	B	94	667	-	59	761	820	164	24
2	東京体育館	E	66	-	112	-	178	-	-	-
3	国立代々木競技場	E	58	-	120	-	178	-	-	-
4	日本武道館	D	567	-	-	-	178	-	-	-
5	皇居外苑	C	0	-	458	-	458	-	-	-
6	東京国際フォーラム	E	420	-	-	-	178	-	-	-
7	国技館	E	91	-	82	-	173	-	-	-
8	有明アリーナ	A	0	140	119	-	259	140	164	24
9	有明BMXコース	C	0	-	366	-	366	-	-	-
10	有明ペドローム	C	0	-	366	-	366	-	-	-
11	有明体操競技場	C	0	-	255	-	255	-	-	-
12	有明テニスの森	D	320	-	-	-	304	320	164	24
13	お台場海浜公園	C	345	-	-	-	305	-	-	-
14	潮風公園	C	408	-	-	-	249	-	-	-
15~16	東京ビッグサイト・ホールA、B	E	3,168	-	-	-	356	-	-	-
17	大井ホッケー競技場	A	290	-	-	-	183	290	164	24
18	海の森クロスカントリーコース	C	0	-	514	-	514	-	-	-
19	海の森水上競技場	A	0	-	544	-	544	0	164	24
20	海の森マウンテンバイクコース	C	0	-	323	-	323	-	-	-
21	若洲オリンピックマリーナ	A	300	-	123	-	423	300	164	24
22	葛西臨海公園	A	2,700	-	-	-	193	2,700	164	24
23~24	夢の島ユース・プラザ・アリーナA、B	A	455	-	-	-	433	455	164	24
25	夢の島公園	A	455	-	-	-	193	455	164	24
26	夢の島競技場	E	280	-	-	-	534	-	-	-
27~28	オリンピックアクアティクスセンター ウォーターポロアリーナ	A	125	-	200	-	325	125	164	24
29	武蔵野の森総合スポーツ施設	B	0	-	208	-	208	0	164	24
30	東京スタジアム	E	900	-	-	-	233	-	-	-
31	武蔵野の森公園	C	309	-	207	-	516	-	-	-
32	陸上自衛隊朝霞訓練場	C	0	-	173	-	173	-	-	-
33	霞ヶ関カンツリークラブ	E	617	-	-	-	249	-	-	-
34	札幌ドーム	E	1,591	-	-	-	223	-	-	-
35	宮城スタジアム	E	5,379	-	-	-	223	-	-	-
36	埼玉スタジアム2002	E	1,460	-	-	-	223	-	-	-
37	横浜国際総合競技場	E	718	-	-	-	223	-	-	-
0V	選手村	A	0	1,120	-	280	1,120	1,400	164	24
IBC/MPC	東京ビッグサイト(IBC/MPC)	D	3,168	-	-	-	1,346	3,168	164	24

注1：会場No.は、表1-3-37(p1-85~1-86)に示す会場No.に準ずる。

注2：開催時の利用台数は、既存の駐車場台数に開催時の増設台数(仮設又は恒設)を考慮して算出した。

注3：後利用時の利用台数は、恒久会場または既存会場(改修あり)を対象に、既存の駐車場台数に開催時及び開催後の増設台数(恒設)を考慮して算出した。また、日本武道館は既存会場(改修あり)であるが、恒設部分の施設利用は想定されないため、「-」として示した。

注4：開催時の利用台数は、大会関係者専用の利用台数である。観客やスタッフについては100%公共交通機関を利用する計画となっているため、利用台数が既存の駐車場台数を下回っている会場がある。

② 歓声や声援等による影響

競技の実施の際に、各会場における歓声や声援等に伴って発生する騒音による影響について、競技の形態(屋内/屋外)、騒音の継続時間、周辺の土地利用状況等を踏まえて予測した。また、観客やスタッフの移動に伴い発生する騒音による影響について、観客やスタッフの移動手段、移動経路等を踏まえて予測した。

(3) 予測評価の結果

1) 開催前（工事の実施による影響）

① 一次評価

工事の実施に伴って発生する騒音による影響の程度について、騒音の発生要因となるような工事を実施しない東京国際フォーラムを除く 38 会場を対象として予測評価を行った。

各会場における工事用車両の走行に伴う道路交通騒音レベル増加分の予測結果及び建設機械の稼働に伴って発生する敷地境界におけるは騒音レベルの予測結果は表 5-8-19(p5-8-40)に示すとおりである。

ピーク時の工事用車両の走行に伴う道路交通騒音レベルの増加は、いずれの会場においても 2 dB 以下であると予測した。

また、建設機械の稼働に伴って発生する敷地境界におけるピーク時の騒音レベルは、各会場 80dB 未満であると予測した。

これらの騒音レベルの変化が、周辺的生活環境に大きな影響を及ぼすことはないと考えられるものの、工事の実施に伴って一時的ではあるが、新たな騒音が発生すると予測した。

したがって、各会場の評価結果は、いずれも「-1」とした。

表 5-8-19 工事の実施に伴って発生する騒音レベル予測結果

会場 No	会場名	工事用車両		建設機械		
		予測条件	騒音レベル 予測結果	予測条件		騒音レベル 予測結果
		ピーク時 工事用 車両台数 (台/日)	ピーク時 道路交通騒音 レベル増加分 (dB)	ピーク時 建設機械 稼働台数 (台/日)	ピーク時 敷地境界における 騒音レベル 推定値 (dB)	ピーク時 敷地境界における 騒音レベル 予測値 (dB)
1	オリンピックスタジアム(国立霞ヶ丘競技場)	750	2以下	64	71.6	72
2	東京体育館	2	2以下	3	61.6	68
3	国立代々木競技場	138	2以下	18	67.1	70
4	日本武道館	8	2以下	2	64.6	69
5	皇居外苑	13	2以下	16	65.8	69
6	東京国際フォーラム	0	—	0	—	—
7	国技館	59	2以下	9	70.9	72
8	有明アリーナ	137	2以下	12	68.8	71
9	有明BMXコース	44	2以下	4	60.2	67
10	有明ベロドローム	148	2以下	13	65.2	69
11	有明体操競技場	173	2以下	16	66.2	70
12	有明テニスの森	121	2以下	11	62.3	68
13	お台場海浜公園	1	2以下	2	57.9	66
14	潮風公園	2	2以下	2	55.7	65
15~16	東京ビッグサイト・ホールA、B	5	2以下	6	58.2	66
17	大井ホッケー競技場	23	2以下	3	54.3	64
18	海の森クロスカントリーコース	11	2以下	2	47.9	62
19	海の森水上競技場	28	2以下	4	55.1	65
20	海の森マウンテンバイクコース	1	2以下	1	47.5	62
21	若洲オリンピックマリーナ	6	2以下	1	58.9	66
22	葛西臨海公園	5	2以下	2	48.1	62
23~24	夢の島ユース・プラザ・アリーナA、B	344	2以下	30	63.4	68
25	夢の島公園	2	2以下	3	53.5	64
26	夢の島競技場	113	2以下	14	62.0	68
27~28	オリンピックアクアティクスセンター ウォーターポロアリーナ	295	2以下	27	67.3	70
29	武蔵野の森総合スポーツ施設	0	—	0	—	—
30	東京スタジアム	2	2以下	2	55.0	65
31	武蔵野の森公園	8	2以下	10	58.8	66
32	陸上自衛隊朝霞訓練場	117	2以下	12	61.2	67
33	霞ヶ関カンツリークラブ	6	2以下	8	51.6	63
34	札幌ドーム	3	2以下	3	54.4	65
35	宮城スタジアム	1	2以下	2	45.3	61
36	埼玉スタジアム2002	5	2以下	6	57.2	66
37	横浜国際総合競技場	4	2以下	5	58.8	66
0V	選手村	1,270	2以下	119	68.3	70
IBC/MPC	東京ビッグサイト(IBC/MPC)	271	2以下	23	63.8	69

注：会場 No. は、表 1-3-37 (p1-85~1-86) に示す会場 No. に準ずる。

② ミティゲーション

一次評価の結果をふまえ、各会場において、工事の実施に伴って発生する騒音レベルの低減を目的として想定したミティゲーションの内容は、表 5-8-20 に示すとおりである。

表 5-8-20 工事に伴う騒音の低減に関して想定したミティゲーションの内容

対 象	ミティゲーションの内容
全会場	<ul style="list-style-type: none">・ 工事の実施に際しては可能な限り、最新の低騒音型建設機械を使用する等、最新技術の導入により工事に伴う騒音の低減を図る。・ 工事用車両に対して規制速度の遵守、走行ルートの限定、安全走行、過積載の防止等を指導し、道路交通騒音及び振動の低減を図る。・ 待機中の工事用車両はアイドリングストップを厳守し、不必要な空ぶかしを行わない。・ 適切な工事工程管理並びに建設機械の稼働時間の調整を行う等、建設機械の稼働が一時的に集中しないように配慮する。・ 各会場において近隣に他の会場が密集する場合には、「防音」対策を実施することで、周辺の会場に対する騒音による影響を低減する。・ 複数の会場について工事期間が重複する場合には、工事用車両の走行時間及び経路等の観点から交通量を分散させることで、工事用車両の走行に伴う騒音を低減する。

③ 二次評価

一次評価の結果によると各会場において、工事の実施に伴って騒音の発生が予測されたことから評価は「-1」であったが、各会場とも工事用車両の走行に伴う道路交通騒音レベルの増加分は小さく、また、建設機械の稼働に伴う敷地境界での騒音レベルも東京都環境確保条例に基づく勧告基準（80dB）を満足していること、さらに工事の実施の際には、騒音の低減を目的として想定したミティゲーションの実施により、会場周辺的生活環境に影響を及ぼすことのない程度の騒音レベルが維持されるものと予測した。

したがって、各会場の評価結果は、いずれも「0」とした。

2) 開催中（競技の実施による影響）

① 一次評価

各会場において競技を実施する際の駐車場の利用及び熱源施設の供用に伴って発生する騒音による周辺的生活環境への影響の程度、さらに、各会場における歓声や声援（応援）等により発生する騒音による影響の程度について、すべての会場を対象として予測評価を行った。

(イ) 駐車場の利用及び熱源施設の供用による影響

各会場における駐車場の利用及び熱源等施設の供用に伴って発生する騒音レベルの予測結果は、表 5-8-21(p5-8-43)に示すとおりである。

駐車場の利用に伴って発生する騒音レベルは 44.7～45.9dB であり、熱源等施設の供用に伴って発生する騒音レベルはいずれの施設においても 57.0dB である。予測結果は敷地境界線における騒音レベルであり、会場周辺の住宅地等の保全対象施設までの距離を考慮すると、駐車場の利用に伴う騒音、熱源等施設の供用に伴う騒音のいずれも住居系地域の昼間(6～22時)に適用される環境基準 55dB を満足できるレベルであると予測した。

なお、駐車場は大会関係者専用であり、観客やスタッフについては 100%公共交通機関を使って移動する計画であることから、競技の観戦を目的とした自動車交通量の増加に伴って発生する騒音が会場周辺的生活環境に影響を及ぼすことはない。

したがって、各会場の評価結果は、いずれも「0」とした。

(ロ) 歓声や声援等による影響

競技の実施の際に、各会場における歓声や声援等に伴って発生する騒音による影響について予測評価した結果は、表 5-8-22(p5-8-44)に示すとおりである。

また、競技の観戦を目的とした観客やスタッフについては 100%公共交通機関を使って移動する計画であることから、各会場近傍の駅から会場までの道のりにおいて観客等が集中し、話し声や声援、鳴り物、拡声器等の騒音の発生、テレビ局、警察、消防等におけるヘリコプターによる騒音の発生が想定されるものの、その影響は一時的なものであり、会場周辺的生活環境に影響を及ぼすものではないと予測した。

以上のことより、各会場の評価結果は、いずれも「0」とした。

表 5-8-21 開催中における競技の実施に伴って発生する騒音レベル予測結果

会場 No	会場名	駐車場利用 状況	熱源施設		騒音レベル予測結果	
		開催時駐車場 利用台数 (台/日)	設置台数 (台)	1日当りの 稼働時間 (h)	駐車場利用	設備稼働
					敷地境界最大騒音 レベル (dB)	敷地境界最大騒音 レベル (dB)
1	オリンピックスタジアム(国立霞ヶ丘競技場)	761	164	24	45.3	57.0
2	東京体育館	178	-	-	44.7	-
3	国立代々木競技場	178	-	-	44.7	-
4	日本武道館	178	-	-	44.7	-
5	皇居外苑	458	-	-	45.0	-
6	東京国際フォーラム	178	-	-	44.7	-
7	国技館	173	-	-	44.7	-
8	有明アリーナ	259	164	24	44.8	57.0
9	有明BMXコース	366	-	-	44.9	-
10	有明ベロドローム	366	-	-	44.9	-
11	有明体操競技場	255	-	-	44.8	-
12	有明テニスの森	304	164	24	44.8	57.0
13	お台場海浜公園	305	-	-	44.8	-
14	潮風公園	249	-	-	44.8	-
15~16	東京ビッグサイト・ホールA、B	356	-	-	44.9	-
17	大井ホッケー競技場	183	164	24	44.7	57.0
18	海の森クロスカントリーコース	514	-	-	45.0	-
19	海の森水上競技場	544	164	24	45.1	57.0
20	海の森マウンテンバイクコース	323	-	-	44.9	-
21	若洲オリンピックマリーナ	423	164	24	45.0	57.0
22	葛西臨海公園	193	164	24	44.7	57.0
23~24	夢の島ユース・プラザ・アリーナA、B	433	164	24	45.0	57.0
25	夢の島公園	193	164	24	44.7	57.0
26	夢の島競技場	534	-	-	45.1	-
27~28	オリンピックアクアティクスセンター ウォーターポロアリーナ	325	164	24	44.9	57.0
29	武蔵野の森総合スポーツ施設	208	164	24	44.7	57.0
30	東京スタジアム	233	-	-	44.8	-
31	武蔵野の森公園	516	-	-	45.0	-
32	陸上自衛隊朝霞訓練場	173	-	-	44.7	-
33	霞ヶ関カンツリークラブ	249	-	-	44.8	-
34	札幌ドーム	223	-	-	44.8	-
35	宮城スタジアム	223	-	-	44.8	-
36	埼玉スタジアム2002	223	-	-	44.8	-
37	横浜国際総合競技場	223	-	-	44.8	-
0V	選手村	1,120	164	24	45.7	57.0
IBC/MPC	東京ビッグサイト(IBC/MPC)	1,346	164	24	45.9	57.0

注：会場 No. は、表 1-3-37 (p1-85~1-86) に示す会場 No. に準ずる。

表 5-8-22 歓声や声援による騒音影響の予測評価結果

会場 No	会場名	評価結果 (一次評価)	予測評価
1	オリンピックスタジアム (国立霞ヶ丘競技場)	0	開会式、閉会式及びサッカー（決勝）の競技実施時に、歓声による騒音の影響が想定されるが、これらの影響は一時的なものであり、周辺地域の生活環境に影響を及ぼすものではないと予測した。 したがって、評価結果は「0」とした。
8 27～ 28	有明アリーナ オリンピックアクアティクスセンター ウォーターポロアリーナ	0	これらの3会場は、新しく建設する施設ではあるが、屋内競技（バレーボール、水泳）の実施会場となることから、競技の実施の際、歓声や声援が会場の外部に漏れ、周辺地域の生活環境に影響を及ぼすことはないものと予測した。 したがって、評価結果は「0」とした。
17 19 21 22 23～ 24 25	大井ホッケー競技場 海の森水上競技場 若洲オリンピックマリーナ 葛西臨海公園 夢の島ユース・プラザ・アリーナA、B 夢の島公園	0	これらの7会場は、臨海部の埋立地や海上、公園内に新設される会場であり、会場の周辺には、騒音の発生により生活環境に影響が及ぶような居住地等は存在しないことから、影響はないものと予測した。 したがって、各会場の評価結果は、いずれも「0」とした。
0V	選手村	0	選手村の各施設の利用形態として、競技の開催中の選手等の生活の場となることから、周辺地域の生活環境に影響を及ぼすような騒音の発生はないものと予測した。 したがって、評価結果は「0」とした。
IBC /MPC	東京ビッグサイト (IBC/MPC)	0	IBC/MPC の各施設の利用形態は、競技の開催中に報道関係者等が利用する専用の施設であり、周辺地域の生活環境に影響を及ぼすような騒音の発生はないものと予測した。 したがって、評価結果は「0」とした。
	その他の 26 会場	0	その他の会場については、既存施設を改築、改修して使用することから、現状においても、競技会場やイベント会場として利用されており、歓声や声援による騒音の発生は現況と同じレベルであると予測した。 さらに、屋内競技を実施する会場の場合においては、歓声等が会場の外に漏れ、周辺地域の生活環境に影響を及ぼすことはないものと予測した。 また、仮施設で競技を実施する会場においても、競技の実施の際の歓声や声援等による騒音は競技の開催中の一時的なものであり、会場周辺地域の生活環境に影響を及ぼすものではないと予測した。 したがって、各会場の評価結果は、いずれも「0」とした。

注：会場 No. は、表 1-3-37 (p1-85～1-86) に示す会場 No. に準ずる。

(ハ) まとめ

上記の検討結果を併せて検討した各会場の評価結果は、いずれも「0」とした。

② ミティゲーション

一次評価の結果、いずれの会場においても、競技の実施の際の施設の利用に伴って発生する騒音や、歓声や声援等に伴って発生する騒音が各会場周辺地域の生活環境に影響を及ぼすことはないと予測した。

したがって、現時点でミティゲーションは想定していないが、実施段階における計画の具体化に併せ、拡声器の音量調整や鳴り物を控える、関係車両やヘリコプター台数の最小化、深夜時間帯における音の大きさの規制等の対応が考えられ、騒音低減の対策等について検討を行う。

③ 二次評価

一次評価の結果、各会場における駐車場の利用、熱源施設の供用に伴って発生する騒音、歓声や声援等に伴って発生する騒音は周辺環境に影響を及ぼす程度のものではないと予測されたことから、現時点でミティゲーションは想定していない。

したがって、各会場の評価結果は一次評価と同様、いずれも「0」とした。

3) 開催後（工事の実施による影響）

① 一次評価

仮設撤去に係る工事の実施に伴って発生する騒音による影響の程度について、仮設撤去の工事を行わない東京国際フォーラム、武蔵野の森総合スポーツ施設、東京ビックサイト（IBC/MPC）を除く 36 会場を対象として予測評価を行った。

仮設撤去工事に伴う工事用車両の走行及び建設機械の稼働に伴って発生する騒音レベルの予測結果は、表 5-8-23 (p5-8-46) に示すとおりである。

ピーク時の工事用車両の走行に伴う道路交通騒音レベルの増加は、いずれの会場においても 2 dB 以下であると予測した。

また、建設機械の稼働に伴って発生する敷地境界におけるピーク時の騒音レベルは、各会場とも 80dB 未満であると予測した。

これらの騒音レベルの変化が、周辺的生活環境に大きな影響を及ぼすことはないと考えられるものの、工事の実施に伴って一時的ではあるが、新たな騒音の発生を予測した。

したがって、各会場の評価結果は、いずれも「-1」とした。

表 5-8-23 仮設撤去工事の実施に伴って発生する騒音レベル予測結果

会場 No	会場名	工事用車両		建設機械		
		予測条件	騒音レベル 予測結果	予測条件		騒音レベル 予測結果
		ピーク時 工事用 車両台数 (台/日)	ピーク時 道路交通騒音 レベル増加分 (dB)	ピーク時 建設機械 稼働台数 (台/日)	ピーク時 敷地境界における 騒音レベル 推定値 (dB)	ピーク時 敷地境界における 騒音レベル 予測値 (dB)
1	オリンピックスタジアム(国立霞ヶ丘競技場)	2	2以下	3	58.2	66
2	東京体育館	2	2以下	2	60.4	67
3	国立代々木競技場	104	2以下	14	65.8	69
4	日本武道館	4	2以下	5	69.7	71
5	皇居外苑	6	2以下	8	62.8	68
6	東京国際フォーラム	0	—	0	—	—
7	国技館	59	2以下	9	71.0	72
8	有明アリーナ	1	2以下	2	60.7	67
9	有明BMXコース	263	2以下	25	67.9	70
10	有明ベロドローム	891	2以下	78	73.0	72
11	有明体操競技場	1,041	2以下	96	74.0	73
12	有明テニスの森	3	2以下	4	58.0	66
13	お台場海滨公園	9	2以下	11	65.7	69
14	潮風公園	10	2以下	13	63.3	68
15~16	東京ビッグサイト・ホールA、B	19	2以下	24	64.0	69
17	大井ホッケー競技場	7	2以下	9	59.1	67
18	海の森クロスカントリーコース	64	2以下	13	55.7	65
19	海の森水上競技場	14	2以下	18	62.0	68
20	海の森マウンテンバイクコース	7	2以下	9	55.3	65
21	若洲オリンピックマリーナ	7	2以下	8	67.4	70
22	葛西臨海公園	10	2以下	13	56.2	65
23~24	夢の島ユース・ブラザ・アリーナA、B	2	2以下	3	53.4	64
25	夢の島公園	15	2以下	19	61.4	68
26	夢の島競技場	423	2以下	53	67.7	70
27~28	オリンピックアクアティクスセンター ウォーターポロアリーナ	1,783	2以下	166	75.3	73
29	武蔵野の森総合スポーツ施設	1	—	1	—	—
30	東京スタジアム	1	2以下	2	53.8	64
31	武蔵野の森公園	6	2以下	8	57.5	66
32	陸上自衛隊朝霞訓練場	409	2以下	44	66.7	70
33	霞ヶ関カンツリークラブ	5	2以下	6	50.4	63
34	札幌ドーム	2	2以下	3	53.2	64
35	宮城スタジアム	1	2以下	1	44.1	60
36	埼玉スタジアム2002	4	2以下	5	56.0	65
37	横浜国際総合競技場	3	2以下	4	57.5	66
0V	選手村	170	2以下	48	64.3	69
IBC/MPC	東京ビッグサイト(IBC/MPC)	0	—	0	—	—

注：会場 No. は、表 1-3-37 (p1-85~1-86) に示す会場 No. に準ずる。

② ミティゲーション

一次評価の結果をふまえ、各会場における仮設撤去工事の実施に伴って発生する騒音レベルの低減を目的として想定したミティゲーションの内容は、表 5-8-24 に示すとおりである。

表 5-8-24 工事に伴う騒音の低減に関して想定したミティゲーションの内容

対 象	ミティゲーションの内容
全会場	<ul style="list-style-type: none">・ 工事の実施に際しては可能な限り、最新の低騒音型建設機械を使用する等、最新技術の導入により工事に伴う騒音の低減を図る。・ 工事用車両に対して規制速度の遵守、走行ルートの限定、安全走行、過積載の防止等を指導し、道路交通騒音及び振動の低減を図る。・ 待機中の工事用車両はアイドリングストップを厳守し、不必要な空ぶかしを行わない。・ 適切な工事工程管理並びに建設機械の稼働時間の調整を行う等、建設機械の稼働が一時的に集中しないように配慮する。・ 各会場において近隣に他の会場が密集する場合には、「防音」対策を実施することで、周辺の会場に対する騒音による影響を低減する。

③ 二次評価

一次評価の結果によると各会場において、仮設撤去工事の実施に伴って騒音の発生が予測されたことから評価は「-1」であったが、各会場とも工事用車両の走行に伴う道路交通騒音レベルの増加分は小さく、また、建設機械の稼働に伴う敷地境界での騒音レベルも東京都環境確保条例に基づく勧告基準（80dB）を満足していること、さらに仮設撤去工事の実施の際には、騒音の低減を目的として想定したミティゲーションの実施により、会場周辺の生活環境に影響を及ぼすことのない程度の騒音レベルが維持されるものと予測した。したがって、各会場の評価結果は、いずれも「0」とした。

4) 開催後（後利用による影響）

① 一次評価

各会場の後利用について、競技やイベント等の開催時の駐車場の利用及び熱源施設の供用に伴う騒音による影響の程度について、開催前に恒久施設を建設し開催後も同施設を利用するオリンピックスタジアム（国立霞ヶ丘競技場）、有明アリーナ、有明テニスの森、大井ホッケー競技場、海の森水上競技場、若洲オリンピックマリーナ、葛西臨海公園、夢の島ユース・プラザ・アリーナA、B、夢の島公園、オリンピックアクアティクスセンター、ウォーターポロアリーナ、武蔵野の森総合スポーツ施設、選手村、東京ビッグサイト（IBC/MPC）の15会場を対象として予測評価を行った。

また、海の森水上競技場は、利用者用駐車場の整備は現時点では行わない計画であることから「(イ)駐車場の利用及び熱源施設の供用における影響」については予測評価の対象外とした。日本武道館については、新たに建設した恒久施設がイベント開催会場等として一般利用されることは想定していないため予測評価の対象外とした。

(イ) 駐車場の利用及び熱源施設の供用による影響

恒久施設である会場のうち13会場を対象として行った、駐車場の利用及び熱源施設の供用に伴う騒音レベルの予測結果は、表5-8-25に示すとおりである。

駐車場の利用に伴って発生する騒音レベルは、44.5～49.9dB（平均45.3dB）の範囲であり、熱源等施設の供用に伴って発生する騒音レベルは、いずれも57.0dBであると予測した。以上のことから、駐車場の利用及び熱源等施設の供用に伴って発生する騒音はいずれも環境基準を満足するレベルであると予測した。

なお、オリンピックスタジアム（国立霞ヶ丘競技場）及び選手村は新たに大規模な駐車場を整備することから、その台数に相当する交通量が増加し、それに伴う騒音による影響が想定されるが、増加する交通量は周辺道路の交通量に比べて少ないこと、オリンピックスタジアム（国立霞ヶ丘競技場）はイベント開催時に限られること、選手村は住宅として利用され、公共交通機関の利便性も良く、平日における車の使用頻度もそれほど高くないものと想定されることから、会場周辺的生活環境に与える影響は小さいものと予測した。

したがって、各会場の評価結果は、いずれも「0」とした。

表 5-8-25 開催後における施設の供用に伴って発生する騒音レベル予測結果

会場 No	会場名	会場 類型	駐車場台数			駐車場 利用台数 (台)	熱源施設		騒音レベル予測結果	
			既存台数 (台)	開催時の 増設台数 (恒設) (台)	開催後の 増設台数 (恒設) (台)		設置台数 (台)	1日当りの 稼働時間 (h)	駐車場利用 敷地境界 最大騒音 レベル (dB)	設備稼働 敷地境界 最大騒音 レベル (dB)
1	オリンピックスタジアム(国立霞ヶ丘競技場)	B	94	667	59	820	164	24	45.4	57.0
2	東京体育館	E	66	-	-	-	-	-	44.6	-
3	国立代々木競技場	E	58	-	-	-	-	-	44.6	-
4	日本武道館	D	567	-	-	-	-	-	45.1	-
5	皇居外苑	C	0	-	-	-	-	-	44.5	-
6	東京国際フォーラム	E	420	-	-	-	-	-	45.0	-
7	国技館	E	91	-	-	-	-	-	44.6	-
8	有明アリーナ	A	0	140	-	140	164	24	44.7	57.0
9	有明BMXコース	C	0	-	-	-	-	-	44.5	-
10	有明ベロドローム	C	0	-	-	-	-	-	44.5	-
11	有明体操競技場	C	0	-	-	-	-	-	44.5	-
12	有明テニスの森	D	320	-	-	320	164	24	44.9	57.0
13	お台場海浜公園	C	345	-	-	-	-	-	44.9	-
14	潮風公園	C	408	-	-	-	-	-	44.9	-
15~16	東京ビッグサイト・ホールA、B	E	3,168	-	-	-	-	-	47.7	-
17	大井ホッケー競技場	A	290	-	-	290	164	24	44.8	57.0
18	海の森クロスカントリーコース	C	0	-	-	-	-	-	44.5	-
19	海の森水上競技場	A	0	-	-	0	164	24	44.5	57.0
20	海の森マウンテンバイクコース	C	0	-	-	-	-	-	44.5	-
21	若洲オリンピックマリナー	A	300	-	-	300	164	24	44.8	57.0
22	葛西臨海公園	A	2,700	-	-	2,700	164	24	47.2	57.0
23~24	夢の島ユース・ブラザ・アリーナA、B	A	455	-	-	455	164	24	45.0	57.0
25	夢の島公園	A	455	-	-	455	164	24	45.0	57.0
26	夢の島競技場	E	280	-	-	-	-	-	44.8	-
27~28	オリンピックアクアティクスセンター ウォーターポロアリーナ	A	125	-	-	125	164	24	44.7	57.0
29	武蔵野の森総合スポーツ施設	B	0	-	-	0	164	24	44.5	57.0
30	東京スタジアム	E	900	-	-	-	-	-	45.4	-
31	武蔵野の森公園	C	309	-	-	-	-	-	44.8	-
32	陸上自衛隊朝霞訓練場	C	0	-	-	-	-	-	44.5	-
33	霞ヶ関カントリークラブ	E	617	-	-	-	-	-	45.1	-
34	札幌ドーム	E	1,591	-	-	-	-	-	46.1	-
35	宮城スタジアム	E	5,379	-	-	-	-	-	49.9	-
36	埼玉スタジアム2002	E	1,460	-	-	-	-	-	46.0	-
37	横浜国際総合競技場	E	718	-	-	-	-	-	45.3	-
0V	選手村	A	0	1,120	280	1,400	164	24	45.9	57.0
IBC/MPC	東京ビッグサイト(IBC/MPC)	D	3,168	-	-	3,168	164	24	47.7	57.0

注1：会場 No. は、表 1-3-37 (p1-85~1-86) に示す会場 No. に準ずる。

注2：後利用時の利用台数は、恒久会場または既存会場（改修あり）を対象に、既存の駐車場台数に開催時及び開催後の増設台数（恒設）を考慮して算出した。また、日本武道館は既存会場（改修あり）であるが、恒設部分の施設利用は想定されないため、「-」として示した。

(ロ) 歓声や声援等による影響

競技の実施やイベントの開催時に、各会場における歓声や声援等に伴って発生する騒音による影響について予測評価した結果は、表 5-8-26(p5-8-50～5-8-51)に示すとおりである。

なお、各会場におけるイベント開催時に、公共交通機関を利用して来場する観客等が会場近傍の駅から会場までの道のりにおいて集中し、話し声や声援等の騒音が発生することも想定されるものの、その影響は一時的なものであり、会場周辺の生活環境に影響を及ぼすものではないと予測した。

表 5-8-26(1) 歓声や声援による騒音影響の予測評価結果

会場 No.	会場名	評価結果 (一次評価)	予測評価
1	オリンピックスタジアム (国立霞ヶ丘競技場)	- 1	オリンピックスタジアム (国立霞ヶ丘競技場) は新設の会場であり、競技の開催後においても、競技会場やイベント会場として恒久的に利用されることから、競技等の開催時に歓声や声援による騒音が発生する。これらの騒音はスタジアムを建設する前から発生していたが、一時的ではあるが、継続的に発生することから、周辺地域の生活環境に継続的な影響を及ぼす可能性があるものと予測した。 したがって、評価結果は「- 1」とした。
8	有明アリーナ	0	開催後の後利用の形態としては、屋内競技や屋内でのイベント会場等としての利用が想定され、イベント等開催時の歓声や声援が、周辺地域の生活環境に影響を及ぼすことはないものと予測した。 したがって、評価結果は「0」とした。
12	有明テニスの森	0	開催後の後利用の形態としては、競技の開催中と同様、テニスコートとして利用される。もともとテニスを楽しむための公園であることから、開催後においても利用形態に大きな違いはないことから、新たに周辺地域の生活環境に影響を及ぼすことはないものと予測した。 したがって、評価結果は「0」とした。
17	大井ホッケー競技場	0	後利用の形態としては、競技の開催中と同様、ホッケー競技会場として利用される。野球場やその他のグラウンド等がいくつも整備されスポーツ活動の場として賑わう大井ふ頭中央海浜公園内の既存の野球グラウンドを改修してつくられる施設であり、周辺に住居等は存在していないことから、騒音の発生により、新たに周辺地域の生活環境に影響を及ぼすことはないものと予測した。 したがって、評価結果は「0」とした。
19	海の森水上競技場	0	開催後の後利用の形態としては、水辺のレクリエーション施設として利用される。周辺には住居等も存在していない地域であり、周辺の生活環境に影響を及ぼすことはないものと予測した。 したがって、評価結果は「0」とした。

注：会場 No. は、表 1-3-37 (p1-85～1-86) に示す会場 No. に準ずる。

表 5-8-26(2) 歓声や声援による騒音影響の予測評価結果

会場 No.	会場名	評価結果 (一次評価)	予測評価
21	若洲オリンピックマリーナ	0	後利用の形態としては、競技の開催中と同様、マリーナとして利用される。海に面した若洲海浜公園内の施設であり、周辺には住居等は存在していないことから、新たに周辺地域の生活環境に影響を及ぼすような騒音の発生はないものと予測した。 したがって、評価結果は「0」とした。
22	葛西臨海公園	0	後利用の形態としては、競技の開催中と同様に、カヌーの競技会場として利用される。葛西臨海公園内で海に面した場所にあり、周辺には住宅等は存在しない、週末には多くの人で賑わう公園であり、カヌー施設の利用において、新たに周辺地域の生活環境に影響を及ぼすような騒音の発生はないものと予測した。 したがって、評価結果は「0」とした。
23～ 24	夢の島ユース・プラザ・アリーナA、B	0	開催後の後利用の形態としては、競技の開催中と同様、屋内スポーツ競技会場、体育館やイベント会場等として利用される。夢の島公園内で現在もスポーツ文化館として広く利用されている施設を改築することから、新たに周辺的生活環境に影響を及ぼすことはないものと予測した。 したがって、評価結果は「0」とした。
25	夢の島公園	0	開催後の後利用の形態としては、競技の開催中と同様、アーチェリーの競技会場として利用される。夢の島公園内の施設であり、周辺には住宅等は存在していないことから、また、アーチェリーについても大声を出して応援するような競技ではないことから周辺的生活環境に影響を及ぼすことはないものと予測した。 したがって、評価結果は「0」とした。
27～ 28	オリンピックアクアティクスセンター ウォーターポロアリーナ	0	開催後の後利用の形態としては、水泳競技場（プール）として利用される。周辺は公園や運河であり、また、屋内競技であることから、声援等周辺的生活環境に影響を及ぼすことはないものと予測した。 したがって、評価結果は「0」とした。
29	武蔵野の森総合スポーツ施設	0	開催後の後利用の形態としては、屋内競技や屋内でのイベント会場等としての利用が想定され、イベント等開催時の歓声や声援が、周辺地域の生活環境に影響を及ぼすことはないものと予測した。 したがって、評価結果は「0」とした。
0V	選手村	0	後利用の形態としては、選手村の施設を活用した住宅として利用されることから、周辺地域の生活環境に影響を及ぼすような騒音の発生はないものと予測した。 したがって、評価結果は「0」とした。
IBC/ MPC	東京ビッグサイト (IBC/MPC)	0	後利用の形態としては、東京ビッグサイトと同じ屋内展示場として利用されるため、周辺地域の生活環境に影響を及ぼすような騒音の発生はないものと予測した。 したがって、評価結果は「0」とした。

注：会場 No. は、表 1-3-37 (p1-85～1-86) に示す会場 No. に準ずる。

② ミティゲーション

一次評価の結果をふまえ、オリンピックスタジアム（国立霞ヶ丘競技場）において会場の後利用の際に発生する騒音による周辺地域の生活環境への影響を低減することを目的とし想定したミティゲーションの内容は、表 5-8-27 に示すとおりである。

なお、オリンピックスタジアム（国立霞ヶ丘競技場）以外の会場については、一次評価の結果、会場の後利用の際に発生する騒音が周辺地域の生活環境に与える影響はないものと予測した。

したがって、現時点でミティゲーションは想定していないが、実施段階においては計画の具体化に併せ、騒音低減等の対策について検討を行う。

表 5-8-27 騒音の発生の低減に関して想定したミティゲーションの内容

対象	ミティゲーションの内容
オリンピックスタジアム （国立霞ヶ丘競技場）	<ul style="list-style-type: none">・ スタジアムの観客席部分を屋根で覆う・ 競技やイベント開催時においてスタジアムを使用する時間に配慮する（夜間、早朝の使用を避ける等）・ 応援の際の鳴物の使用の制限等により発生する音をコントロールする

③ 二次評価

一次評価の結果によるとオリンピックスタジアム（国立霞ヶ丘競技場）は、会場の後利用に伴って発生する騒音により、周辺地域の生活環境に影響を及ぼすものと予測し、評価結果は「-1」としたが、騒音による影響の低減を目的として想定したミティゲーションを実施することにより、周辺の生活環境への影響を及ぼさない程度の騒音に抑えられるものと予測した。

したがって、評価結果は、「0」とした。

また、その他の会場については、後利用により競技の開催前の騒音レベル以上の騒音は発生せず、周辺地域の生活環境に影響を及ぼすことはないものと予測されたことから、現時点でミティゲーションは想定していない。

したがって、オリンピックスタジアム（国立霞ヶ丘競技場）を除く各会場の評価結果は一次評価と同様、いずれも「0」とした。

(4) 評価結果の総括

各会場に対する評価結果は、表 5-8-28(p5-8-53)に示すとおりである。

開催前及び開催後の工事の実施時には、建設機械の集中稼働を避ける等の対策により、すべての会場で「0」とした。

オリンピックスタジアム（国立霞ヶ丘競技場）では、後利用において影響があると予測されたが、観客席部分を屋根で覆う等の対策により、周辺の生活環境に影響を及ぼさない程度の騒音レベルに抑えられることから「0」とした。

表 5-8-28 各施設に対する騒音の評価結果総括表

No.	会場 名称	評価点(一次)						評価点(二次)					
		開催前		開催中		開催後		開催前		開催中		開催後	
		工事 影響	招致等 の影響	存在 影響	競技の 影響	工事 影響	後利用 の影響	工事 影響	招致等 の影響	存在 影響	競技の 影響	工事 影響	後利用 の影響
1	オリンピックスタジアム(国立霞ヶ丘競技場)	-1		-	0	-1	-1	0		-	0	0	0
2	東京体育館	-1		-	0	-1	-	0		-	0	0	-
3	国立代々木競技場	-1		-	0	-1	-	0		-	0	0	-
4	日本武道館	-1		-	0	-1	-	0		-	0	0	-
5	皇居外苑	-1		-	0	-1		0		-	0	0	
6	東京国際フォーラム	-		-	0	-	-	-		-	0	-	-
7	国技館	-1		-	0	-1	-	0		-	0	0	-
8	有明アリーナ	-1		-	0	-1	0	0		-	0	0	0
9	有明BMXコース	-1		-	0	-1		0		-	0	0	
10	有明ペロドローム	-1		-	0	-1		0		-	0	0	
11	有明体操競技場	-1		-	0	-1		0		-	0	0	
12	有明テニスの森	-1		-	0	-1	0	0		-	0	0	0
13	お台場海浜公園	-1		-	0	-1		0		-	0	0	
14	潮風公園	-1		-	0	-1		0		-	0	0	
15~16	東京ビッグサイト・ホールA、B	-1		-	0	-1	-	0		-	0	0	-
17	大井ホッケー競技場	-1		-	0	-1	0	0		-	0	0	0
18	海の森クロスカントリーコース	-1		-	0	-1		0		-	0	0	
19	海の森水上競技場	-1		-	0	-1	0	0		-	0	0	0
20	海の森マウンテンバイクコース	-1		-	0	-1		0		-	0	0	
21	若洲オリンピックマリナー	-1		-	0	-1	0	0		-	0	0	0
22	葛西臨海公園	-1		-	0	-1	0	0		-	0	0	0
23~24	夢の島ユース・プラザ・アリーナA、B	-1		-	0	-1	0	0		-	0	0	0
25	夢の島公園	-1		-	0	-1	0	0		-	0	0	0
26	夢の島競技場	-1		-	0	-1	-	0		-	0	0	-
27~28	オリンピックアクアティクスセンター ウォーターポロアリーナ	-1		-	0	-1	0	0		-	0	0	0
29	武蔵野の森総合スポーツ施設	-1		-	0	-	0	0		-	0	-	0
30	東京スタジアム	-1		-	0	-1	-	0		-	0	0	-
31	武蔵野の森公園	-1		-	0	-1		0		-	0	0	
32	陸上自衛隊朝霞訓練場	-1		-	0	-1		0		-	0	0	
33	霞ヶ関カントリー倶楽部	-1		-	0	-1	-	0		-	0	0	-
34	札幌ドーム	-1		-	0	-1	-	0		-	0	0	-
35	宮城スタジアム	-1		-	0	-1	-	0		-	0	0	-
36	埼玉スタジアム2002	-1		-	0	-1	-	0		-	0	0	-
37	横浜国際総合競技場	-1		-	0	-1	-	0		-	0	0	-
0V	選手村	-1		-	0	-1	0	0		-	0	0	0
IBC/MPC	東京ビッグサイト(IBC/MPC)	-1		-	0	-	0	0		-	0	-	0

※会場 No は、表 1-3-37 (p1-85~1-86) に示す会場 No を表す。

※評価点の目安は以下のとおりである。

- +2: 大きなプラスの影響
- +1: ある程度のプラスの影響
- 0: 中立
- 1: ある程度のマイナスの影響
- 2: 大きなマイナスの影響

- : 予測評価の検討において対象外とした影響
- : 網掛けは非該当項目のため対象外とした影響

5-8-3 予測評価（競技別）

(1) 評価の指標及び目安

競技別検討における評価の指標及び目安は、表 5-8-29 に示すとおりである。

表 5-8-29 評価の指標及び目安

評価の指標	評価の基準	評価の目安				
		- 2	- 1	0	+ 1	+ 2
環境・交通騒音レベル	①環境基準及び法令等による基準 ②現況の騒音レベル	基準より良好な現況が基準より悪化、基準を満たさない現況がさらに悪化(周辺環境に大きな影響を及ぼす程度の騒音)	現況より悪化(周辺環境に影響を及ぼす程度の騒音)するが基準より良好	現況と変わらない(周辺環境に影響を及ぼさない程度の騒音)	基準を満たしつつ現況より改善	改善の結果、基準を満足する

(2) 予測評価の方法

競技別には、陸上競技（マラソン）、陸上競技（競歩）、自転車競技（ロード・レース）、トライアスロン、水泳（マラソン 10km）、カヌー（スプリント）、カヌー（スラローム）、ボート、セーリングの9競技を対象として、開催中（競技の実施による影響）の騒音による周辺環境への影響について予測評価を行った。

それぞれの時期における予測評価の方法は、表 5-8-30 に示すとおりである。

表 5-8-30 予測評価方法（競技別）

予測評価の時期		予測評価の方法
開催中	競技の実施による影響	屋外における競技の実施に伴う会場周辺の観客等による声援、応援等による騒音、競技の実施に伴う先導車や中継車等の車両の走行に伴って発生する騒音が周辺の生活環境に与える影響について定性的に予測評価を行った。

(3) 予測評価の結果

1) 開催中（競技の実施による影響）

① 一次評価

競技の実施にともなって発生する騒音の程度について予測評価を行った。

各競技における予測評価の結果は、表 5-8-31 に示すとおりである。

表 5-8-31 屋外競技の実施に伴う騒音の予測評価結果

競技名	評価結果 (一次評価)	予測評価
陸上競技（マラソン）	0	<p>陸上競技（マラソン）については、オリンピックスタジアム（国立霞ヶ丘競技場）を競技のスタート会場及びゴール会場としており、コースの主要な経由地としては、四谷三丁目、四谷見附、飯田橋、一ツ橋、大手門、祝田橋、日比谷、銀座四丁目、浅草橋、吾妻橋がある。</p> <p>競技の実施に併せて先導車、大会・選手関係者の車、報道関係車の走行、報道・消防・警察に関連したヘリコプターに伴う騒音の発生が想定されるが、台数は少なく、競技実施中に限った一過性のものである。また、競技の実施にあたっては、一般車両等の規制が行われることから、全体として競技の実施における車両の走行に伴って発生する騒音が、競技会場周辺の生活環境に影響を及ぼすことはほとんどないものと予測した。</p> <p>また、競技の実施の際に、観客の声援や応援による騒音の発生が想定されるが、いずれも屋外で実施する競技であり、スタジアム等で行う競技とは異なり、声援や応援による声が集まって大きな騒音を発生させることはない。更に、陸上競技（マラソン）の開催コース各所での騒音発生が最も大きくなる時間帯は選手通過時の数回のみで、それぞれ極短い発生時間となり、競技実施区域周辺の生活環境に影響を及ぼすことはほとんどないものと予測した。</p> <p>したがって、各競技の評価結果は、いずれも「0」とした</p>
陸上競技（競歩）	0	<p>陸上競技（競歩）については、オリンピックスタジアム（国立霞ヶ丘競技場）を競技のスタート会場及びゴール会場としており、コースの主な経由地としては、外苑西通り及び青山通りがある。また、青山通りにおいて南青山三丁目、表参道、南青山五丁目付近の1kmは周回コースとして利用される。</p> <p>競技の実施に併せて先導車、大会・選手関係者の車、報道関係車の走行、報道・消防・警察に関連したヘリコプターに伴う騒音の発生が想定されるが、台数は少なく、競技実施中に限った一過性のものである。また、競技の実施にあたっては、一般車両等の規制が行われることから、全体として競技の実施における車両の走行に伴って発生する騒音が、競技会場周辺の生活環境に影響を及ぼすことはほとんどないものと予測した。</p> <p>また、競技の実施の際に、観客の声援や応援による騒音の発生が想定されるが、屋外で実施する競技であり、スタジアム等で行う競技とは異なり、声援や応援による声が集まって大きな騒音を発生させることはない。更に、陸上競技（競歩）の開催コースの一部は周回コースとなり、声援や応援による騒音の発生が想定されるものの、競技の開催時間は昼間の数時間と限定的であり、競技会場周辺の生活環境に影響を及ぼすことはほとんどないものと予測した。</p> <p>したがって、評価結果は「0」とした。</p>

競技名	評価結果 (一次評価)	予測評価
自転車競技（ロード・レース）	0	<p>自転車競技（ロード・レース）については、皇居外苑を競技のスタート会場、武蔵野の森公園をゴール会場としており、コースの主要な経由地としては、新宿通り（国道20号線）、鶴川街道、川崎街道がある。</p> <p>競技の実施に併せて先導車、大会・選手関係者の車、報道関係車の走行、報道・消防・警察に関連したヘリコプターに伴う騒音の発生が想定されるが、台数は少なく、競技実施中に限った一過性のものである。また、競技の実施にあたっては、一般車両等の規制が行われることから、全体として競技の実施における車両の走行に伴って発生する騒音が、競技会場周辺の生活環境に影響を及ぼすことはほとんどないものと予測した。</p> <p>また、競技の実施の際に、観客の声援や応援による騒音の発生が想定されるが、いずれも屋外で実施する競技であり、スタジアム等で行う競技とは異なり、声援や応援による声が集まって大きな騒音を発生させることはない。更に、自転車競技（ロード・レース）の開催コース各所での騒音発生が最も大きくなる時間帯は選手通過時の数回のみで、それぞれ極短い発生時間となり、競技実施区域周辺の生活環境に影響を及ぼすことはほとんどないものと予測した。</p> <p>したがって、各競技の評価結果は、いずれも「0」とした。</p>
トライアスロン /パラトライアスロン	0	<p>トライアスロンについては、お台場海浜公園を競技のスタート会場及びゴール会場としており、コースの主要な経由地としては、お台場、青海一丁目、青海二丁目、潮風公園がある。</p> <p>トライアスロンについては、競技の実施に併せて先導車、大会・選手関係者の車、報道関係車の走行、報道・消防・警察に関連したヘリコプターに伴う騒音の発生が想定されるが、台数は少なく、競技実施中に限った一過性のものである。また、競技の実施にあたっては、一般車両等の規制が行われることから、全体として競技の実施における車両の走行に伴って発生する騒音が、競技会場周辺の生活環境に影響を及ぼすことはほとんどないものと予測した。</p> <p>また、競技の実施の際に、観客の声援や応援による騒音の発生が想定されるが、いずれも屋外で実施する競技であり、スタジアム等で行う競技とは異なり、声援や応援による声が集まって大きな騒音を発生させることはない。更に、トライアスロンの開催コース各所での騒音発生が最も大きくなる時間帯は選手通過時の数回のみで、それぞれ極短い発生時間となり、競技会場周辺の生活環境に影響を及ぼすことはほとんどないものと予測した。</p> <p>したがって、各競技の評価結果は、いずれも「0」とした。</p>
水泳(マラソン 10km)	0	<p>水泳(マラソン 10km)については、お台場海浜公園で競技が実施される。</p> <p>先導車、大会・選手関係者の車、報道関係車を伴うことはない想定されることから、競技の実施による車両の走行に伴う騒音の発生はないものと予測した。なお、競技の実施の際には、観客の声援や応援による騒音の発生が想定されるが、いずれも屋外で実施する競技であり、スタジアム等で行う競技とは異なり、声援や応援による声が集まって大きな騒音を発生させることはないことから、競技会場周辺の生活環境に影響を及ぼすことはほとんどないものと予測した。</p> <p>したがって、各競技の評価結果は、いずれも「0」とした。</p>

競技名	評価結果 (一次評価)	予測評価
カヌー(スプリント) / パラカヌー	0	<p>カヌー(スプリント)については、海の森水上競技場で競技が実施され、周囲には保全対象施設は存在していない。</p> <p>先導車、大会・選手関係者の車、報道関係車を伴うことはない と想定されることから、競技の実施による車両の走行に伴う騒音 の発生はないものと予測した。なお、競技の実施の際には、観客 の声援や応援による騒音の発生が想定されるが、いずれも屋外で 実施する競技であり、スタジアム等で行う競技とは異なり、声援 や応援による声が集まって大きな騒音を発生させることはない ことから、競技会場周辺の生活環境に影響を及ぼすことはほとん どないものと予測した。</p> <p>したがって、各競技の評価結果は、いずれも「0」とした。</p>
カヌー(スラローム)	0	<p>カヌー(スラローム)については、葛西臨海公園で競技が実施 される。</p> <p>先導車、大会・選手関係者の車、報道関係車を伴うことはない と想定されることから、競技の実施による車両の走行に伴う騒音 の発生はないものと予測した。なお、競技の実施の際には、観客 の声援や応援による騒音の発生が想定されるが、いずれも屋外で 実施する競技であり、スタジアム等で行う競技とは異なり、声援 や応援による声が集まって大きな騒音を発生させることはない ことから、競技会場周辺の生活環境に影響を及ぼすことはほとん どないものと予測した。</p> <p>したがって、各競技の評価結果は、いずれも「0」とした。</p>
ボート	0	<p>ボートについては、海の森水上競技場で競技が実施され、周囲 には保全対象施設は存在していない。</p> <p>先導車、大会・選手関係者の車、報道関係車を伴うことはない と想定されることから、競技の実施による車両の走行に伴う騒音 の発生はないものと予測した。なお、競技の実施の際には、観客 の声援や応援による騒音の発生が想定されるが、いずれも屋外で 実施する競技であり、スタジアム等で行う競技とは異なり、声援 や応援による声が集まって大きな騒音を発生させることはない ことから、競技会場周辺の生活環境に影響を及ぼすことはほとん どないものと予測した。</p> <p>したがって、各競技の評価結果は、いずれも「0」とした。</p>
セーリング	0	<p>セーリングについては、若洲オリンピックマリーナから出航し た後に洋上で競技が実施され、周囲には保全対象施設は存在して いない。</p> <p>先導車、大会・選手関係者の車、報道関係車を伴うことはない と想定されることから、競技の実施による車両の走行に伴う騒音 の発生はないものと予測した。なお、競技の実施の際には、観客 の声援や応援による騒音の発生が想定されるが、いずれも屋外で 実施する競技であり、スタジアム等で行う競技とは異なり、声援 や応援による声が集まって大きな騒音を発生させることはない ことから、競技会場周辺の生活環境に影響を及ぼすことはほとん どないものと予測した。</p> <p>したがって、各競技の評価結果は、いずれも「0」とした。</p>

② ミティゲーション

一次評価の結果、競技の実施の際の先導車等の車両の走行に伴って発生する騒音や声援や応援等による騒音によって、会場周辺の生活環境に影響を及ぼすことはないと予測した。

したがって、現時点でミティゲーションは想定していないが、実施段階においては計画の具体化に併せ、拡声器の音量調整や鳴り物を控える、関係車両やヘリコプター台数の最小化、深夜時間帯における音の大きさの規制等の対応が考えられ、騒音低減等の対策について検討を行う。

③ 二次評価

一次評価の結果、競技中の先導車等の車両の走行に伴って発生する騒音や声援、応援等に伴って発生する騒音が会場周辺の生活環境に影響を及ぼすことはないものと予測されたことから、現時点でミティゲーションは想定していない。

したがって、各競技の評価結果は一次評価と同様、いずれも「0」とした。

(4) 評価結果の総括

各競技に対する評価結果は、表 5-8-32 に示すとおりである。

観客の声援や応援によって、競技会場周辺の生活環境に影響を及ぼすようなことはほとんどなく、すべての競技で「0」となる。

表 5-8-32 各競技に対する騒音の評価結果総括表

No.	競技 名称	評価点(一次)						評価点(二次)					
		開催前		開催中		開催後		開催前		開催中		開催後	
		工事 影響	招致等 の影響	存在 影響	競技の 影響	工事 影響	後利用 の影響	工事 影響	招致等 の影響	存在 影響	競技の 影響	工事 影響	後利用 の影響
1	陸上競技(マラソン)				0					0			
2	陸上競技(競歩)				0					0			
3	自転車競技(ロード・レース)				0					0			
4	トライアスロン/パラトライアスロン				0					0			
5	水泳(マラソン 10km)				0					0			
6	カヌー(スプリント)/パラカヌー				0					0			
7	カヌー(スラローム)				0					0			
8	ボート				0					0			
9	セーリング				0					0			

※競技 No は、表 1-3-38 (p1-87) に示す競技 No を表す。

※評価点の目安は以下のとおりである。

- +2: 大きなプラスの影響
- +1: ある程度のプラスの影響
- 0: 中立
- 1: ある程度のマイナスの影響
- 2: 大きなマイナスの影響

- : 予測評価の検討において対象外とした影響
- : 網掛けは非該当項目のため対象外とした影響